

専門科目
(摂食・嚥下障害コース開
講)

【科目名】 <div>摂食・嚥下障害学総論</div>		【担当教員】 <div>井上 誠、辻村 恭憲、真柄 仁</div>	
【授業区分】 <div>専門科目</div>	【授業コード】 <div>Dbmhs101</div>	(メールアドレス) <div>井上: inoue@dent.niigata-u.ac.jp 辻村: tsujimura@dent.niigata-u.ac.jp 真柄: jin-m@dent.niigata-u.ac.jp</div>	
【開講時期】 <div>前期</div>	【選択必修】 <div>必修</div>		
【単位数】 <div>2</div>	【コマ数】 <div>15</div>	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後に対応	
【注意事項】 <div>(受講者に関わる情報・履修条件)<div>本講義は、疾患にもとづく検査と診断から、リハビリテーションにいたるまでの臨床科目というだけでなく、生活弱者を支える栄養支援や環境設定などの幅広い知識を必要とする。十分な事前の学習を必要とするが、不明な点は講義中、講義後に積極的に質問をするなどの対応をしてもらいたい。</div><div>(受講のルールに関わる情報・予備知識)<div>遅刻・無断欠席のないようにすること。授業中の質問や疑問などを積極的に行い、授業への主体的な参加を心がけること。生成AIの使用に関しては、利用禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。</div></div></div>			
【講義概要】 <div>(目的)<div>正常な摂食嚥下機能及びその神経性制御機構を学んだ後、神経機序からみた嚥下障害の理解へとつなげる。種々の疾患を原因とする摂食嚥下障害の病因、複雑な構造と機能障害について病態生理学的な理解を深める。摂食嚥下障害の検査及びリハビリテーションについての知識を深め、臨床応用へとつなげるだけでなく、一生涯健康に食べることの意義について考えていく。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</div><div>(方法)<div>主として配付資料及び参考図書を使用して講義を行う。毎回の確認テストを行い、回収後に解答の解説を行う。</div></div></div>			
【一般教育目標 (GIO)】 <div>摂食嚥下障害の病態を把握するために、摂食嚥下機能に関する正常像と障害像について理解を深める。 摂食嚥下障害の臨床アプローチを把握するために必要な検査、診断、リハビリテーションの流れを理解する。</div>			
【行動目標 (SB0)】 <div>摂食嚥下機能の正常像と病態像を説明する。 摂食嚥下機能障害者に対する臨床的アプローチの手段を説明できる。 摂食嚥下障害の病態像や疾患を取り巻く社会状況に関する新たな知見について説明できる。</div>			
【教科書・リザーブドブック】 <div>毎回資料を配付する。</div>			
【参考書】 <div>摂食嚥下リハビリテーション第4版（才藤栄一・植田耕一郎監修） 医歯薬出版</div>			
【評価に関わる情報】 <div>(評価の基準・方法)<div>成績評価基準は、出席（30%）ならびにレポート（70%）で評価を行う。本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。</div></div>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70				30	100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	総論	講義（井上）	準備：これまで学修してきた摂食嚥下障害に関する内容の整理.	180分
2	摂食嚥下機能に関わる神経解剖	講義（井上）	準備：摂食嚥下，解剖，生理等の知識の整理. 事後：授業内容の整理（摂食嚥下機能に関わる末梢神経解剖）.	準備学習 90分 事後学習 90分
3	摂食嚥下機能を支える中枢メカニズム	講義（井上）	準備：摂食嚥下，解剖，生理等の知識の整理. 事後：授業内容の整理（摂食嚥下機能に関わる中枢神経解剖）.	準備学習 90分 事後学習 90分
4	摂食嚥下障害の診断に必要な検査とその方法	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害の検査と診断）の知識の整理. 事後：授業内容の整理（原因疾患）.	準備学習 90分 事後学習 90分
5	障害の考え方と摂食嚥下リハビリテーション	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（リハビリテーション論）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分
6	脳血管疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（脳血管疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分
7	呼吸機能と呼吸器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（呼吸器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分
8	小児（発達障害，先天異常）の摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（小児の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分

9	代謝系疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（代謝性疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
10	動物実験の最近の知見	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害のメカニズムに関連した動物実験）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
11	消化器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（消化器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
12	頭頸部腫瘍に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（頭頸部腫瘍術後の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
13	神経疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（神経疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
14	ヒト研究の最近の知見	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害のメカニズムに関連したヒト研究）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
15	高齢者の摂食嚥下障害に対する考え方	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域の知識の整理ならびに臨床への展開に向けた課題を考える。 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分

【科目名】		口腔咽喉頭機能学		【担当教員】	山村 千絵
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	ds 102	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金 10:30～12:00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
口腔・咽頭・喉頭及び周辺領域の解剖・生理について、摂食嚥下や言語聴覚機能・障害に関連した専門科目を学ぶために必要となる高度な内容へと発展させていく講義とします。言語聴覚障害コースの学生向けに、臨床歯科医学・口腔外科学の内容を教授します。 試験やレポートには、コメントを付して返却します。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
少人数で双方向型の授業を展開します。授業には積極的に参加しましょう。 生成AIについては、利用可の場面を限定します。「講義資料の要約、レポートの草稿作成」の場合においてのみ利用を許可します。これ以外の場面での利用は禁止します。					
【講義概要】					
(目的)					
摂食嚥下や言語聴覚機能・障害に関連した頭頸部・顔面・口腔・咽頭・喉頭の構造と機能を中心に講義します。また臨床歯科医学の領域からは「歯・歯周組織」「口腔・顎・顔面」「顎関節」「唾液腺」「口腔ケア」「歯科医学的処置」などの内容を、口腔外科学の領域からは「構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患及びそれに対する歯科医学的治療法」「本領域における炎症、感染症、腫瘍、嚢胞、外傷並びに治療後の欠損」「中枢性疾患や加齢による口腔機能障害」等を網羅します。 ●当該科目と学位授与方針等との関連性： 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
主として配付資料やパワーポイントスライド等を用いて講義を行います。また、研究者として不可欠なクリティカルシンキング（自律的に能動的に考える能力と態度、自分なりの意見を持ち、建設的・積極的に思考すること、物事を論理的に批判的に捉えて思考すること）を鍛えるために関連領域の論文も抄読します。その他、受講生の希望に沿った講義を組み立てて実施します。 ●試験・レポートのフィードバック方法： コメントを付して返却します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・生体機能、特に口腔機能を科学的視点で捉えるために、それぞれの機能発現における神経系の仕組みを理解する。 ・言語聴覚障害コースの学生は言語聴覚士国家試験受験に必要な臨床歯科医学・口腔外科学領域の知識を身に付ける。					
【行動目標 (SB0)】					
・摂食嚥下や言語聴覚機能に関連した、口腔・咽頭・喉頭の構造と機能を詳細に説明できる。 ・摂食嚥下の神経機構や歯科領域の疾患・治療について最近の知見も含めて説明できる。 ・味覚や唾液分泌のしくみを説明でき、歯科臨床的トピックスと関連付けて考察できる。 ・関連領域の論文を客観的に理解し評価することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に指定しない、プリント等を配付する。					
【参考書】					
金子芳洋（訳）摂食・嚥下メカニズムUPDATE 構造・機能からみる新たな臨床への展開 医歯薬出版 2006年 ¥5,940 税込 才藤栄一（監）摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版2016年 ¥8,360 税込 夏目長門（編）言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 2016年 ¥4,620 税込					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、記述式試験80%、講義途中で課すレポート等課題の達成度20%の割合で実施する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	関連領域のトピックス 聴講学生に合ったテーマのトピックス紹介と討議	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
2	口腔（歯・歯周組織）・顎・顔面・顎関節・唾液腺・咽頭・喉頭の構造と機能 口腔（歯・歯周組織）・顎・顔面・顎関節・唾液腺・咽頭・喉頭の解剖と生理 ～一步進んで…～	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
3	咀嚼運動 咀嚼運動の仕組み、神経性制御 最近の知見	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
4	味を感じる仕組み・味覚障害 味覚受容機構、味覚の意義、おいしさとは、味覚障害の種類 臨床的トピックス	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
5	嚥下運動 嚥下運動の仕組み、神経性制御 中枢性疾患や加齢による口腔機能障害 最近の知見	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
6	歯・口腔・顎・顔面の診察法 歯・口腔・顔面の症状の表現方法 本領域における炎症、感染症、腫瘍、嚢胞、外傷、治療後の欠損 歯科医学的治療法・処置	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
7	唾液の働きと分泌機構 唾液の生理的機能、分泌機構 唾液を使って行う各種検査 口腔ケア 臨床的トピックス	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
8	関連領域の論文抄読、論文の書き方 聴講学生が選択した興味ある論文の抄読 論文の書き方の基本 ＊言語聴覚障害コースの学生は国家試験対策も含む	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分

【科目名】		摂食・嚥下障害評価学		【担当教員】	高橋 圭三、松村 博雄
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Dh 103	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 高橋：火15：30～ 松村：来学時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
摂食・嚥下コースの1年生必修。嚥下障害の基礎知識を持ち合わせ、評価法を学ぶ意欲のある院生であること					
・レポートにはコメントを付して返却する。					
・クラス発表ではコメントを述べる。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・講義中に配布された資料は、以降の講義にもできる限り持参のこと。					
【講義概要】					
(目的)					
摂食・嚥下を評価する各種検査法／評価尺度について、実践的で具体的な方法を学ぶ。VF、VEなどの画像検査評価法では画像解析練習を行う。種々の検査評価法により解明された正常嚥下の理解を深め、正確な検査・評価を実施する力を養い、患者の総合的な情報収集・適切な目標設定と治療プログラムを導くための知識を身につける。					
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
摂食嚥下障害領域の臨床には非常に重要な評価の講義である。積極的な講義への参加をしてもらいたい。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・摂食・嚥下を評価する各種検査法／評価尺度について理解を深める。					
・各種評価法で得られる正常嚥下の特徴を正しく理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
・各種嚥下評価法を用いての正常嚥下の動態や特徴がわかる。					
・各種嚥下評価法の長所・短所を把握し、目的にあった機器や検査法の選択ができる。					
・嚥下造影検査や内視鏡検査で得られた画像の解析ができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
プリントを配布する					
【参考書】					
日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会：嚥下内視鏡検査の手順2012改訂. 日摂食嚥下リハ会誌16(3)					
http://www.jsdr.or.jp/doc/) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会：嚥下造影の検査法 (詳細版) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会2014年度版. 日摂食嚥下リハ会誌18(2)http://www.jsdr.or.jp/doc/)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					
レポート50%、クラス発表50%の割合で評価する。					
松村：成績評価は、講義終了後理解度確認テストを出題し、この結果100%で評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価 指標	取り込む力・知識			50	50				100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 各種嚥下評価法 科目の概要と今後の予定 クラス発表の分担決定 講義：各種嚥下評価法の特徴	講義(高橋)	予習：摂食嚥下障害概要を学習しておくこと。復習：配布されたプリントに目を通すその他：発表テーマの設定、スケジューリング等	予習90分 復習等90分
2	正常嚥下のバイオメカニズム 講義：健常者の嚥下の生理	講義(高橋)	事後学修：講義ノートと資料の復習	予習90分 復習等90分
3	嚥下造影検査画像解析① 演習：画像解析演習（正常例）	講義(高橋)	準備学修：正常嚥下の動態	予習90分 復習等90分
4	嚥下造影検査画像解析② 演習：解析結果報告とディスカッション	講義(高橋)	準備学修：嚥下造影検査の手順のバリエーション	予習90分 復習等90分
5	嚥下造影検査評価の手順 講義：嚥下造影検査の考え方と実施手続き	講義(高橋)	準備学修：嚥下造影検査の手順のバリエーション	予習90分 復習等90分
6	嚥下造影検査：造影剤と放射線(高橋) 講義：造影剤の特徴と放射線の危険性	講義(高橋)	事後学修：講義の復習と関連文献閲覧 クラス発表準備	予習90分 復習等90分
7	嚥下内視鏡検査(高橋) 講義：嚥下内視鏡検査の手順 演習：画像解析練習	講義(高橋)	準備学修：嚥下内視鏡検査について基礎知識を得ておく クラス発表準備	予習90分 復習等90分
8	筋電図(高橋) 講義：筋電図で見る嚥下の特徴	講義(高橋)	復習：講義で配布された筋電図の論文を通読しておく クラス発表準備	予習90分 復習等90分

9	感覚系の評価(高橋) 講義：嚥下の感覚系評価の現状	講義(高橋)	事後学修：講義で紹介された論文に 目を通す クラス発表準備	予習90分 復習等90 分
10	超音波検査(高橋) 講義：超音波検査の特徴	講義(高橋)	事後学修：講義で紹介された論文に 目を通す クラス発表準備	予習90分 復習等90 分
11	頸部聴診法、嚥下圧検査(高橋) 講義：頸部聴診と嚥下圧検査による評価	講義(高橋)	事後学修：講義で紹介された論文に 目を通す クラス発表準備	予習90分 復習等90 分
12	クラス発表 発表：例 プロセスモデルについて	発表など(高橋)	レポート提出とレポート内容の発表 (クラス発表)	予習90分 復習等90 分
13	その他の評価(高橋) 講義：スクリーニング検査の意義と限界、患者の QOLに立った評価法など	講義(高橋)	事前学修：各種スクリーニング検査 の特徴について再確認	予習90分 復習等90 分
14	摂食・嚥下に関する中枢の役割(松村) 運動系伝導路	講義(松村)	準備学習： 中枢神経系の解剖学	予習30分 復習30分
15	摂食・嚥下に関する中枢の役割(松村) 感覚(知覚)系伝導路	講義(松村)	準備学習： 中枢神経系の解剖学	予習30分 復習30分

【科目名】 摂食・嚥下発達障害学		【担当教員】 山村 千絵
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 Dbh 104	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	yamamura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 月～金 10:30～12:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 新生児～乳幼児～小学生にいたるまでの、子どもの発達に関する知識が必要です。発達の概略について復習して授業に臨むことを希望します。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 少人数で双方向型の授業を展開します。授業には積極的に参加しましょう。 生成AIについては利用可の場面に限定します。どのような場面で使用できるかについては各教員の指示に従ってください。		
【講義概要】 (目的) 成人の嚥下機能とは異なり、成長や発達といった面を考慮した、摂食・嚥下リハビリテーションの評価及び治療方法について学習します。 ●当該科目と学位授与方針との関連性： 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 主として配付資料やパワーポイントスライド等を用いて講義を行います。 前半は基礎系、後半は臨床系の講義になります。 試験・レポートのフィードバック方法：コメントを付して返却します。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・摂食嚥下機能やその障害、リハビリテーションについて、成人と小児の違いについて理解する。 ・小児の摂食嚥下リハビリテーションを実施する際は、その病態、原因、全身状態を把握することから始まり、摂食嚥下に関わる機能の発達程度や機能不全の部位も見極める必要があることについて理解する。 【行動目標 (SB0)】 ・摂食嚥下障害を持つ小児は、基礎疾患や合併症があることが多く、栄養や呼吸状態などを常に考慮しながら摂食嚥下リハビリテーションを行う必要があることについて説明できる。 ・摂食嚥下障害を持つ小児の食事介助を実践できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定しない。必要に応じてプリント等を配付する。		
【参考書】 小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版、 田角勝 向井美恵編著 医歯薬出版 2014年7月 5,500円(税込) トータルケアで進める子どもの摂食嚥下サポートガイド「食べる」を育む40のポイント 田角勝 (株)診断と治療社 2019年9月 3,520円(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、レポート90%、授業に臨む姿勢10% の割合で実施する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			70					70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	基礎 小児の摂食嚥下機能の仕組み 摂食嚥下器官の形態 成長に伴う口腔・咽頭の形態変化 摂食嚥下の神経機構と脳・神経系の発達	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
2	基礎 摂食嚥下の発達 哺乳運動と発達 口腔領域の形態成長と機能発達 嚥下運動の発達	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
3	基礎 摂食嚥下機能の発達 経口摂取の発達過程 咀嚼機能の発達 食事の自立と口腔機能	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
4	基礎 疾病のある小児の摂食嚥下障害 さまざまな基礎疾患 疾病のある小児の摂食嚥下機能の発達 合併症の管理	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
5	臨床 小児の摂食嚥下機能の評価・診断 小児の基本的な機能発達とリハビリテーション 機能発達程度に応じた食物形態と調理方法	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
6	臨床 小児の摂食嚥下障害とリハビリテーション 疾患別による摂食嚥下障害 食事姿勢とリハビリテーション 外科的対応とリスク管理	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
7	臨床 小児の摂食嚥下障害における栄養 栄養評価とその対応、経口摂取以外の栄養摂取 小児の口腔内について 口腔ケアの実際	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
8	臨床 リハビリテーションの実際 その他	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分

【科目名】 摂食・嚥下予防学		【担当教員】 高橋 圭三
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 db 105	(メールアドレス) takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 火曜の15:30～
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 日本における摂食嚥下障害の問題として、人口問題や死因などが関係し、地域包括ケアシステムなどが重要になってきている。本科目は、摂食嚥下障害の予防に重点を置き、地域で活躍する言語聴覚士等の職種の者や、それらの領域に関心を持つ者に選択して欲しい。「口腔介護」と関連する事項が多く、合わせて受講することが望ましい。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 提出されたレポートは、コメントを記載し返却します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う		
【講義概要】 (目的) 高齢者における摂食嚥下障害には、脳血管障害等の疾患に関連し出現するものから、廃用症候群として問題が起こるものもある。そのような高齢者の加齢変化を理解するとともに、フレイルやサルコペニアなどの理解を深める。また、日本や地域における摂食嚥下障害の問題を考察し、効果的な予防法を提供できる力を身につける。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培うとともに、多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を培う。 (方法) スライド、破風資料を中心に講義を行う。 レポートはコメントをつけて返却する。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・高齢者の加齢変化を理解する。 ・フレイル、サルコペニアを理解する。 ・日本や各地域における摂食嚥下障害の問題を考えることができる。 ・適切な食事姿勢、食事介助方法を理解できる。 ・摂食嚥下障害の予防法を実践できる。 【行動目標 (SB0)】 ・実際に食事姿勢を整え、食事介助を適切に実践できる。 ・実際に摂食嚥下障害予防法を実践できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定しない、プリント等を配布する。		
【参考書】 ・若林 秀隆 著、編集、高齢者の摂食嚥下サポート -老嚥- オーラルフレイル・サルコペニア・認知症-, 新興医学出版社, 2017年・藤本 篤士 (著, 編集), 糸田 昌隆 (著, 編集), 葛谷 雅文 (著, 編集), 若林 秀隆 (著, 編集), 老化と摂食嚥下障害 「口から食べる」を多職種で支えるための視点, 医歯薬出版		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 課題レポート30%、最終レポート70%の割合で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	日本における摂食嚥下障害の問題 日本の死因における摂食嚥下障害との関連性、超高齢社会等の人口問題	講義	口腔介護の復習	予習90分 復習120分
2	各地域における摂食嚥下障害の問題 新潟県や村上市などの人口状況、地域包括ケア、多職種連携	講義	学修した内容の復習	予習90分 復習120分
3	高齢者の問題 口腔～喉頭の加齢変化	講義	解剖、生理学の復習、正常例の理解	予習90分 復習120分
4	高齢者の摂食嚥下障害の問題 フレイル、サルコペニア	講義	学修した内容の復習と臨床への展開を考える	予習90分 復習120分
5	摂食嚥下障害における食事介入 適切な食事環境整備、食事姿勢、食事介助方法	講義	学修した内容の復習と臨床への展開を考える	予習90分 復習120分
6	摂食嚥下障害の予防法 摂食嚥下訓練法の各種紹介、訓練法の予防的観点	講義	各種訓練法の復習	予習90分 復習120分
7	摂食嚥下訓練予防法の実践 実際の予防法を実践する	講義	学修した内容の復習と臨床への展開を考える	予習90分 復習120分
8	実践報告会 実際の予防法の効果などを検証する	講義	学修した内容の復習と臨床への展開を考える	予習90分 復習120分

【科目名】		摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）		【担当教員】	倉智 雅子、松村 博雄、木戸 寿明
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbms106	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	倉智：mkurachi@iuhw.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 倉智：メールにて随時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
頭頸部領域の解剖について、学部レベルの基礎知識を有していること。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
学修に取り組む姿勢も評価の対象となるため、積極的な質問や意見交換が望まれる。 生成系AIの利用は可能。授業内、予復習、成果物作成において、自由に利用できる。ただし、利用した場合はその旨記載すること。					
【講義概要】					
(目的)					
「学位授与の方針と当該授業科目の関連」：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
主として、配付資料とトピックに合わせた動画を使用して講義を行います。 演習については授業の中で正しい解釈について解説します。 「試験・レポートのフィードバック方法」 倉智：レポートについては、コメントを付して返却します。 松村：理解度確認テストにコメントを付して返却。 木戸：ディスカッション・ディベートの中で、現状の理解度の把握と必要な助言を行います。					
【一般教育目標 (GIO)】					
摂食嚥下障害の臨床の土台となる知識と技能を習得するために、ヒトの鰓弓（咽頭弓）性器官の変遷、転用、痕跡など形態形成の特徴をとらえて、摂食・嚥下に関する形態と機能を理解する。また、口腔ケアに必要な知識と技術を修得する。					
【行動目標 (SB0)】					
口腔の診察：口腔内の観察の仕方を説明でき、歯科領域特有の専門用語を用いた表現ができる。さらに一般的な歯口清掃の仕方のみならず、高齢者障害のための口腔ケア実習を通し、義歯の取り扱い、口腔内清拭、舌の清掃、口腔乾燥のケア等について実施できる・演習を通し、顎顔面領域のレントゲン画像の見方や、診療報酬・介護報酬のしくみが概説でき、医療事故等の事例分析ができる。・嚥下に関与する感覚系・運動系の解剖生理および嚥下に関与する延髄や上位中枢の役割がわかる・嚥下障害症例のビデオ画像解析ができる（演習）					
【教科書・リザーブドブック】					
倉智：プリントを配付予定 松村：プリントを配付予定 木戸：プリントを配付予定					
【参考書】					
倉智：才藤栄一，植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版。医歯薬出版， 2016。 ￥7,600					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 3人の担当者の評価を倉智50％（うち、レポート40％、演習および学修に取り組む姿勢10％）、松村25％、木戸25％の割合で合わせて総合的に評価を行う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			70					70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	嚥下の神経機構	講義（倉智）	予習：これまでに学習した嚥下器官の解剖（特に神経支配）と健常嚥下の生理を復習しておく 復習：講義ノートおよび講義資料の整理と確認	180
2	嚥下反射の惹起機構：感覚受容器の特性	講義（倉智）	予習：これまでに学習した嚥下器官のうち、特に口腔と咽喉頭の解剖を復習しておく 復習：講義ノートおよび講義資料の整理と確認	180
3	嚥下の異常所見とその解釈	講義・演習（倉智）	予習：嚥下造影で観察できる健常嚥下の動態および異常所見の確認 復習：演習を通して気付いたことや疑問点をディスカッションで発言できるようまとめる。	180
4	嚥下障害症例の嚥下造影画像解析とディスカッション	講義・討議（倉智）	予習：討議参加への準備 復習：講義ノートおよび講義資料の整理と確認	180
5	鰓弓性(咽頭弓)器官 咀嚼、哺乳、嚥下、発声の発生学	講義（松村）	準備学習：初期発生について	180
6	脳神経Ⅴ、Ⅶ、Ⅸ、Ⅹ 脳神経と咀嚼、嚥下、発生のかかわり	講義（松村）	準備学習：脳神経の解剖学	180
7	全身状態の評価 バイタルサイン、摂食嚥下に関わる身体機能評価	講義（木戸）	準備学習：臨床検査学の復習	180
8	口腔の診察 口腔内観察法と歯科専門用語、口腔ケアの理論と実際	講義（木戸）	準備学習：臨床歯科医学の復習	180

【科目名】		摂食・嚥下訓練・治療法（臨床）		【担当教員】	阿志賀 大和
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Db107	(メールアドレス) ashiga@iuhw.ac.jp (オフィスアワー) 火曜日 12:15～12:50	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 科目履修登録者 摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）を受講していることが望ましい。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価 指標	取り込む力・知識			25	20				45
	思考・推論・創造の力			25	20				45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 臨床で苦慮する症例とその特徴	講義、討議	臨床で苦慮する症例、症状について 発表できるよう準備をしておくこと	180
2	訓練1 各種訓練法の適応、方法 訓練実践時の注意点、苦慮する点についてディス カッション	講義、討議	クラス発表	180
3	訓練2 各種訓練法の適応、方法 訓練実践時の注意点、苦慮する点についてディス カッション	講義、討議	クラス発表	180
4	訓練3 各種訓練法の適応、方法 訓練実践時の注意点、苦慮する点についてディス カッション	講義、討議	クラス発表	180
5	訓練4 各種訓練法の適応、方法 訓練実践時の注意点、苦慮する点についてディス カッション	講義、討議	クラス発表	180
6	薬物治療、栄養管理、外科的治療、補綴装置 実際の臨床における取組みについてディスカッ ション	講義、討議	クラス発表	180
7	チームアプローチ 実際の臨床における取組みについてディスカッ ション	講義、討議	クラス発表	180
8	治療計画立案 症例に即した治療訓練計画の立案練習と倫理的側 面について検討する	講義、討議	クラス発表	180

【科目名】		口腔介護		【担当教員】	木戸 寿明
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Dbh108	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	講義時に伝達	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 来学時に対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
摂食・嚥下障害コースの学生は必修科目。高次脳機能障害コースの学生のうち、顎口腔領域の評価やリハビリテーションに関わる機会の多い言語聴覚士や、それらの領域に興味を持つ者は、選択することが望ましい。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
双方向型の授業です。積極的な態度、発言を求めます。また、社会歯科学的な観点から、口腔介護と現在の社会情勢等との関係も論ずるため、最低限の社会一般常識を有することが必須である。 生成AIの利用は不可とする。					
【講義概要】					
(目的)					
超高齢社会において口腔介護がなぜ必要とされるのかを理解する。口腔介護を理解し、実践するために必要な歯科の臨床解剖、臨床生理、歯科特有の用語、歯科疾患、補綴装置等を理解する。加齢や、摂食嚥下障害をはじめとする歯・口腔・顎・顎・顔面部等の機能の障害により、日常生活に支障をきたした要介護者に対し、歯科の知識と技術を活用して対応するとともに、要介護者に対する対応法や日常生活の支援法についての知識を身につける。いわゆる「フレイル」を理解し、フレイル対策としての口腔介護の役割を理解する。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
・医療介護連携、多職種連携の観点から、様々な連携の実際、問題点の把握を行う。 担当教員は歯科医師であり、日々訪問歯科診療、地域での他職種との連携業務等に携わっています。口腔介護を通して、個々の患者さんにどのようにお役に立てるのか？また、社会全体に対してどのような役割を担えるのか？講義を通して理解し、将来の臨床現場での活躍につなげて頂ければと考えています。 レポートに関して、コメントを付して返却します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・口腔介護の意義について理解するための医学的知識並びに社会的背景について理解する。 ・フレイルを理解し、フレイル対策としての口腔介護を理解する。 ・地域包括ケアにおける口腔介護の役割を理解する					
【行動目標 (SB0)】					
・口腔介護に必要な歯科的観点、歯科的専門用語を用いて、その意義について説明ができる。 ・口腔介護の地域社会での役割について説明ができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
プリント等を配付する					
【参考書】					
歯科衛生士のための口腔介護実践マニュアル メディカ出版 2012年 ¥2,800					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 口頭試問 5 0 % 講義途中での課題の達成度50%					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	口腔介護が求められる社会的背景 超高齢社会における医療供給体制	講義	人口動態等社会情勢の把握	180
2	要介護者の理解 身体的精神的特徴、原因疾患と口腔の関係	講義	学習した内容の復習	180
3	口腔の臨床解剖と臨床生理 摂食嚥下に関わる構造と機能	講義	解剖学、生理学の復習	180
4	歯科疾患と補綴装置 歯科の専門用語、疾患の理解、補綴装置の理論と実際	講義	臨床歯科医学の復習	180
5	要介護者の口腔に関わる諸問題 口腔疾患、口腔機能低下、摂食嚥下障害の実際	講義	前期に学ぶ摂食嚥下障害学の復習	180
6	口腔健康管理について 口腔衛生管理、口腔機能管理の実際	講義	口腔ケアに関する情報収集	180
7	フレイルとは フレイルについて、オーラルフレイル	講義	文献的考察	180
8	多職種連携、地域包括ケア チームによる医療介護連携の実際	講義	一般的な介護保険制度等の把握	180

【科目名】		摂食・嚥下食品・栄養学		【担当教員】	山村 千絵
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbh 201	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金 10:30～12:00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
摂食・嚥下障害コース、高次脳機能障害コース、心の健康科学コースの学生のうち、高齢者や摂食嚥下機能が低下した方、疾病がある方の食事場面や栄養評価に関わる機会のある言語聴覚士や看護師等のうち、それらの領域に強い関心や問題意識を持つ者に選択してほしい。 障害等があつて配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
授業には常に問題意識を持って、積極的に参加しましょう。 東京サテライト校の学生が受講する場合は、オンデマンド配信になります。 生成AIについては、利用可の場面を限定します。「講義資料の要約、レポートの草稿作成」の場合においてのみ4利用を許可します。これ以外の場面での利用は禁止します。					
【講義概要】					
(目的)					
高齢者や摂食嚥下機能が低下した方、疾病がある方の栄養管理には、個々の機能に着目して適切に栄養を摂取するように見守ることと、QOLを向上させることが重要です。そこで、対象者の身体機能や栄養状態の変化を考慮しつつ、誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア、嚥下調整食等の栄養評価・おいしさ評価・物性評価、さらに経管栄養や半固形栄養、高齢者の疾病と栄養ケア、補完代替医療等について論じます。また、食事援助を行う対象者へ向けた食の考え方や工夫について論じます。 ●当該科目と学位授与方針等との関連性： 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
主として配付資料やパワーポイントスライド等を用いて講義を行います。その際、臨床現場で対応する患者様や高齢者などを思い浮かべながら聴講していただくと、理解も深まると思います。 試験・レポートのフィードバック方法： コメントを付して返却します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
リハビリテーション領域の専門知識・技術と本講義内容が、臨床現場において両輪となり、対象者の健康維持ならびに介護予防に貢献できる。					
【行動目標 (SB0)】					
高齢者や摂食嚥下機能が低下した方、疾病がある方等の食生活を栄養面、食品面及び調理面からも科学的に評価できる。 臨床現場における栄養サポートチームの一員としての役割が果たせるようになる。 具体的な栄養評価、栄養プログラムの計画ならびに目標設定が行えるようになる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に指定しない、プリント等を配付する。					
【参考書】					
日本摂食嚥下リハビリテーション学会 (編) 「摂食・嚥下障害患者の栄養 Ver.3」 医歯薬出版 2020年 ¥3,190 (税込) 栢下淳・若林秀隆 (編著) リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第2版 医歯薬出版 2018年 ¥4,180 (税込) 手嶋登志子 (ほか著) 介護食ハンドブック 第2版 医歯薬出版 2010年 ¥3,080 (税込)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、記述式試験 (サテライト学生の場合はレポート形式の試験) 80%、講義途中で課すレポート等課題の達成度20%の割合で実施する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高齢者の身体機能と栄養評価 加齢による身体機能の変化 栄養評価	講義	準備：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 事後：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
2	高齢者の口腔機能と口腔ケア 高齢者の口腔機能 誤嚥性肺炎 口腔ケア	講義	準備：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 事後：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
3	摂食嚥下機能が低下した方の咀嚼と食物形態 嚥下調整食・嚥下訓練食品 QOLを下げない食事 何をどれだけ・どのように食べたらよいか	講義	準備：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 事後：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
4	おいしさ評価 物性評価 摂食行動における味覚の重要性 テクスチャーの評価法	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
5	高齢者の経管栄養と半固形栄養 経管栄養とその問題点 半固形栄養法の実践	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
6	高齢者の疾病と栄養ケア 糖尿病ケア 腎機能障害と栄養ケア	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
7	終末期治療と倫理問題 末期患者への栄養サポートと倫理問題	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
8	がん患者の栄養と補完代替医療 がん患者の栄養評価 がん医療における補完医療	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分

【科目名】		摂食・嚥下障害ケーススタディ・研究方法論		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	D 202	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火曜の15：30～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・摂食・嚥下コース2年次の学生が対象					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・講義には、テキストを持参すること。					
・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
【講義概要】					
(目的)					
「食べる」は極めて日常的な行動ですが、食行動を把握する際、生理的要因、認知的要因、物理的・化学的要因、及び文化的・社会的要因を考慮する必要があります。そのように多面的な観点を基に、様々な原因疾患症例（例えば、高齢者や認知症/精神障害者、頭頸部腫瘍術後例など）の食の特徴及び問題点を概説していきます。さらに、症例を通して感じた疑問やテーマを研究に移せるように摂食嚥下領域で用いられる研究手技について紹介します。					
(方法)					
誤りを怖れる必要はありませんので、質問や自分の意見を述べることを躊躇せず、ディスカッションに積極的に参加することで多くを学んでください。					
レポートにはコメントを付して返却します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・近年の知見から、摂食・嚥下障害の研究法を学ぶ。					
【行動目標 (SBO)】					
・異なる病態/症状を呈する症例に対し、多面的なアプローチができる。					
・摂食・嚥下に関連する研究手法に親しむ。					
【教科書・リザーブドブック】					
里宇明元・藤原俊之 監修：ケーススタディ摂食・嚥下リハビリテーションDVD付 50症例から学ぶ実践的アプローチ。医歯薬出版，2008。¥5,200					
(購入は不要。講義の開始日までに各自、図書館で借りておくこと。)					
【参考書】					
野崎園子・市原典子 編著：DVDで学ぶ神経内科の摂食嚥下障害。医歯薬出版，2014。 ¥7,400					
前田圭介：誤嚥性肺炎の予防とケア (7つの多面的アプローチをはじめよう)。医学書院，2017。 ¥2,592					
藤本篤士 編著：老化と摂食嚥下障害 「口から食べる」を多職種で支えるための視点。医歯薬出版，2017。 ¥4,860					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					
ディスカッションへの参加態度20%、レポート80%として総合的に評価を行う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 脳血管障害による摂食・嚥下障害科目の概要と今 後の予定	講義と症例検討 (画像評価含 む)	事後学修：講義ノートとテキスト当 該章の復習	予習90分 復習120分
2	アルツハイマー病 症候群の摂食・嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含 む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
3	神経筋疾患による摂食嚥下障害：原因疾患と嚥下 障害	講義と症例検討 (画像評価含 む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
4	A L S とパーキンソン病の摂食・嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含 む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
5	頭頸部腫瘍による摂食・嚥下障害：口腔・咽頭癌、 喉頭癌	講義と症例検討 (画像評価含 む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
6	頭頸部腫瘍による摂食・嚥下障害：頸部郭清術と喉 頭全摘頭	講義と症例検討 (画像評価含 む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
7	気管切開・カニューレ装用、人工呼吸器装着症例の摂食・ 嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含 む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
8	椎損傷による摂食・嚥下障害、薬と摂食・嚥下障 害、ターミナルケア	講義と症例検討 (画像評価含 む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分

9	高齢者の食行動と摂食嚥下障害（老嚥、フレイル、サルコペニア）	講義と症例検討	予習：加齢による嚥下機能の変化を確認しておく	220分
10	認知症、精神疾患と摂食嚥下障害	講義と症例検討	予習：認知症の定義を確認しておく	220分
11	症例報告	講義と関連論文での研究法の検討	予習：症例報告を1篇選び、目を通しておく	220分
12	健常者を対象とした研究	講義と関連論文での研究法の検討	準備学修：データの種類の収集方法、統計解析の復習	220分
13	摂食嚥下障害例を対象にした介入研究	講義と関連論文での研究法の検討	事後の展開：講義資料の整理とレポート準備	100分 120分
14	ランダム化比較研究	講義と関連論文での研究法の検討	事後の展開：講義資料の整理とレポート準備	100分 120分
15	Systematic Review	講義と関連論文での研究法の検討	事後の展開：講義資料の整理とレポート準備	100分 120分

【科目名】		高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】		専門科目	【授業コード】	dBmhs109	(メールアドレス)
【開講時期】		前期	【選択必修】	必修	
【単位数】		1	【コマ数】	8	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
(オフィスアワー) 火曜日午後					
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目を受講するには基礎的な神経解剖学を修得していることが前提です。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では大脳の器質的な損傷に伴う巣症状を理解していることが求められます。					
生成AIの利用は不可とする。					
【講義概要】					
(目的)					
高次脳機能障害を幅広く理解する。					
中枢神経系の理解を深める。					
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】					
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
授業やディスカッションにおいて積極的な参加を望む。					
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】					
試験や授業の後で個々にフィードバックする。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・ 中枢神経系の発生、形態学ならびにヒトの脳の特徴（特殊化）を研究する。					
・ 高次脳機能について幅広く概観する。					
【行動目標 (SB0)】					
・ 高次脳機能が日常生活にどのように関わっているかを学修する。					
【教科書・リザーブドブック】					
資料を配付します。					
【参考書】					
脳解剖学 萬年甫 原一之 南江堂 9,800円					
高次脳機能障害 藤田郁代 医学書院 4,725円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					
レポート60%、口頭試問40%。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		60					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		60					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高次脳機能障害とは 高次脳機能の基本概念	講義	中枢神経系に関する解剖学および神経学の書籍を読む。	220
2	聴覚認知とは 聴覚認知の障害	講義	聴覚と脳の関係について関連書を読んで予習する。	220
3	視覚認知とは 視覚認知の障害	講義	視覚と脳の関係について関連書を読んで予習する。	220
4	視空間認知とは 視空間認知の障害	講義	視空間知覚と脳について関連書を読んで予習する。	220
5 6	5 高次脳機能障害の臨床像 ①各症状の出現頻度 ②各症状と左右脳半球の関係	講義	脳血管障害、変性疾患、外傷、脳腫瘍などの疾患に対する文献や書籍を通して予習する。	220
7	触覚認知とは 触覚認知の障害	講義	触覚及び体性感覚と脳について関連書を読んで予習する。	220
8	行為機能とは 行為の障害	講義	行為・遂行機能と脳について関連書を読んで予習する。	220

【科目名】		高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）		【担当教員】	大平 芳則
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmhs110	(メールアドレス) y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 水曜12:40～13:30	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関及び地域保健・健康増進事業等で言語・高次脳機能障害者へのリハビリテーションに従事してきた経験から、脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。 本科目は言語聴覚士、公認心理師等を目指す者には重要な科目となります。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。ただし、それらは全て適切に使う必要がある。引用した場合には、文献を明記し、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。 演習を行ないながら進めますので、毎回必ずPCを持参してください。					
【講義概要】 (目的) ①脳機能と心のはたらき（脳と心）の関係 ②脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのか、を学ぶ。そして、 ③脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：専門領域に関する多様な課題を分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) スライドを使った講義と演習を中心に進める。毎回スライド資料を配布する。 既に高次脳機能障害に関する基礎的な科目を履修していることが望ましい。脳の機能や高次脳機能障害の基本的なことを身につけていないと理解できない可能性がある。 可能な限り具体的な症例を通して实际的に学べるように、演習を行ないながら進めますので、毎回必ずPCを持参してください。					
【一般教育目標 (GIO)】 ①脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 ②高次脳機能障害の神経学的・生理学的作用機序を説明できる。 ③脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。 【行動目標 (SB0)】 高次脳機能障害と脳機能との関連性が理解でき、適切に支援することができる。 コミュニケーション能力の機序を脳機能から理解でき、その機能障害が生活・社会活動全般に及ぼす影響も説明できる。 症例に即した神経心理学的検査を正しく実施でき、その結果を適切に評価できる。					
【教科書・リザーブドブック】 なし。 資料を配付します。					
【参考書】 田川皓一 池田学 神経心理学への誘い 高次脳機能障害の評価 西村書店 2020年 6800円＋税 石合純夫 高次脳機能障害学 医歯薬出版 2022年 4500円＋税 山鳥重 神経心理学入門 医学書院 1985年 6400円＋税					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価は課題レポート100%とする。 出席点は評価に含まない。 課題レポートについては、その解説をもってフィードバックとする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 大脳について重要事項の確認	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
2	高次脳機能障害について重要事項の確認	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
3	前頭葉の損傷例 1 症例紹介	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
4	前頭葉の損傷例 2 報告書の作成	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
5	頭頂葉の損傷例 1 症例紹介	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
6	頭頂葉の損傷例 2 報告書の作成	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
7	側頭葉の損傷例 1 症例紹介	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
8	側頭葉の損傷例 2 報告書の作成	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180

【科目名】		発達神経心理学		【担当教員】		川崎 聡大	
【授業区分】		専門科目		【授業コード】		dbh111	
【開講時期】		前期		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		8	
【メールアドレス】							
【オフィスアワー】来学時に対応							
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
特にありませんが、発達障害領域に関する興味関心を持って受講することを求める							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
AIの利用に関しては校正機能（レポート作成時の誤字脱字のチェック程度）のみ認める。							
【講義概要】							
(目的)							
本講義では発達期における高次脳機能障害の実態を知り根拠に基づいた対処方法について理解を深めることにある。そのため、①発達神経心理、認知神経心理学の基礎を理解し、広汎性発達障害、特異的障害それぞれの定義、障害機序について知る ②応用行動分析学に基づいた言語およびコミュニケーション行動の指導について知る（S-S法を含む）③「臨床発達障害学」の視点から、適切な対応について学び、子どもと保護者（保育者）に対する根拠に基づいた支援・リハビリテーションの方法を学ぶ。を主たる目的とする。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う							
(方法)							
評価は修了後のレポートと講義ごとの小テストから行う。小テストは前回講義を踏まえて次回講義に最初に実施しその場でフィードバックを行う。レポートについては提出後個別にフィードバックを行う。							
【一般教育目標 (GIO)】							
・「発達障害」の最先端を理解する							
・発達障害児を高次脳機能障害の観点からとらえ、発達障害の背景となる要素的な認知機能障害について理解を深め障害像を正しく知る。							
【行動目標 (SB0)】							
・発達障害について根拠に基づいた言語や行動面に関する支援が可能となる。							
・特異的発達障害の指導に関するアセスメントと指導方針を正しく立てることができる。							
【教科書・リザーブドブック】							
資料を配付する。							
【参考書】							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。レポート60％、小テスト・授業・課題への取り組み（特に積極性）40％の割合で総合的に評価を行う。							
1 日分の講義を欠席し出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			60				40	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	小児の高次脳機能障害としての発達障害、各「発達障害」の障害機序と背景となる脳機能障害	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ興味関心事項とテーマを定めて講義に参加することを求める	180
2	発達障害の症候と言語・コミュニケーション面への関係、社会的不利との因果関係	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ興味関心事項とテーマを定めて講義に参加することを求める	180
3	「発達障害」の対象： 広汎性発達障害からASDへ	講義・ディス カッション	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ興味関心事項とテーマを定めて講義に参加することを求める	180
4	言語発達障害に対する指導の基礎 見本合わせ学習に基づいた言語指導 1) 生活年齢に比し遅れ 2) 音声発信困難	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ興味関心事項とテーマを定めて講義に参加することを求める	180
5	言語発達障害に対する指導の基礎 認知神経心理学的アプローチ	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ興味関心事項とテーマを定めて講義に参加することを求める	180
6	指導事例から： ASDおよびADHDに対する支援	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ興味関心事項とテーマを定めて講義に参加することを求める	180
7	指導事例から： 限局性学習障害（ディスレクシアを中心に）	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ興味関心事項とテーマを定めて講義に参加することを求める	180
8	まとめ：近年の研究動向について	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ興味関心事項とテーマを定めて講義に参加することを求める	180

【科目名】 前頭葉機能・右半球障害		【担当教員】 道関 京子、伊林 克彦
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmh113	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	道関：kei.doseki@gmail.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) メール
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 履修に際しては、神経心理学を復習して受講いただきたい。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・知識だけでなく、臨床上の具体的・実践的な評価・訓練体系まで深めるため積極的・能動的に受講すること。 ・生成系 AI の利用は全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（課題発表・レポート等含む）作成において自由に利用して構わないが、使用した場合にその旨をレポート等に示すこと。		
【講義概要】 (目的) ・前頭葉・右半球損傷による言語・精神・行為障害の観察と評価を理解する。 ・この障害をもった脳つまり生きた人間の力動的脳活動の改善への臨床貢献を考える道筋を把握する。 ・前頭葉・右半球損傷の他領域損傷との関連性や違いを理解する。 ・当該授業科目と学授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。		
(方法) ・評価も訓練も、観察的立場と現象学心理学的立場の両面から議論していく。可能な限り実践的な内容とする。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックは、別に解説コメントの時間を設定する。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・前頭葉・右半球の知識を深めるために、その構造と機能およびその損傷による様々な神経心理学的症状について、またその他の脳領域損傷との違いを理解する。 ・さらにその改善に向けた人間科学的アプローチの道筋を考える力をつける。		
【行動目標 (SBO)】 ・前頭葉障害で出現する2非流暢タイプ失語症を鑑別し、それらと他脳領域の障害と鑑別評価ができる。 ・前頭葉・右半球機能損傷による精神機能・行為を的確に評価できる。 ・これら障害に対する臨床訓練を科学的に立案できる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料やプリントを配布する。		
【参考書】 Luria AR：神経心理学の基礎―脳の働き。鹿島晴雄訳，創造出版，2009年 ¥8,000（税別） 波多野和夫他：言語聴覚士のための失語症学。医歯薬出版，2002年，¥5,500（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価は、小テスト50%、課題またはレポート50%で行う。 ・成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			50		50				100
評価 指標	取り込む力・知識		25		25				50
	思考・推論・創造の力		25		25				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	右半球障害の臨床症状	講義（伊林）	右半球症状についての予習	180
2	左右の前頭葉で見られる各症状と責任病巣	講義（伊林）	右半球症状についてを復習	180
3	脳の機能と構造と神活動の基本 1 ・脳器官の働きの特質 ・高次脳機能の定義 ・脳機能・局在・症状	講義・討議 (道関)	・脳器官働きの特質・高次脳機能の定義について復習する ・機能・局在・症状について臨床上にあてはめ考える	180分
4	脳の機能と構造と精神活動の基本 2 ・脳の三つの基本的機能単位系 ・力動的全体論	講義・討議 (道関)	・脳の三つの基本的単位系を復習する ・基本単位系の相互作用をについて考える	180分
5	前頭葉と精神活動調節 ・精神活動 ・運動と行為 ・記憶と知的行為	課題検討 講義・討議 (道関)	・前頭葉の精神活動について復習する ・まとめて発表の準備をする	180分
6	前頭葉の運動領域と感覚運動領域の機構 ・運動の遠心機構と求心機構	課題検討 講義・討議 (道関)	・運動領域と感覚運動領域について復習する ・まとめて発表の準備をする	180分
7	前頭葉と視知覚、聴知覚機構 ・要素的視聴覚と認知機構	課題検討 講義・討議 (道関)	・前頭葉と視知覚、聴知覚について復習する ・要素的視聴覚と認知機構についてまとめて発表の準備をする	180分
8	前頭葉と同時性統合機構 ・具体的空間、準空間統合機構 ・言語記憶の過程	課題検討 講義・討議 (道関)	・前頭葉と同時性統合機構について復習する ・空間、準空間統合と言語記憶についてまとめる	180分

【科目名】		注意・記憶・行為・遂行機能障害		【担当教員】	内山 千鶴子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmh 114	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	c. uchiyama@nur. ac. jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 随時メールで質問・相談に応じます	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この授業の履修に際して、高次脳機能「注意・記憶・行為・遂行機能・その他」とその障害の基礎的知識を前提としますので、よく復習を行っておいて下さい。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
事前に資料を読み予習し、受講に際しては積極的な姿勢で意見表明や質問を行ってください。 生成AIの活用は認めますが、どのように使用したかを明確にしてください。特に、レポートでは生成AIによる意見とご自分の意見を区別して示して下さい。					
【講義概要】					
(目的)					
・高次脳機能の各障害について、定義、症状の分析と把握、評価法、リハビリテーションの基本的な知識を理解できるようにします。 ・その基本知識を踏まえて文献レベルで症例のリハビリテーションの方法を考察できる能力を身につけます。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を統合する力を培います。					
(方法)					
・高次脳機能障害の基本的知識を学習し、そのリハビリテーションを文献で調べてまとめ発表します。 ・課題やレポート等に対するフィードバックは、講義中に説明します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・高次脳機能障害の定義、症状、評価、リハビリテーションの方法を理解できる。 ・学習した知識を活かして文献レベルの症例からリハビリテーションの実際を考察できる。					
【行動目標 (SB0)】					
・高次脳機能の高次脳機能障害の定義、症状、評価、リハビリテーションの方法を説明できる ・高機能障害がある症例のリハビリテーションに関して考察し、各自の意見を述べることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
・資料を配布します ・佐藤睦子：高次脳機能障害： 注意障害・記憶障害・遂行機能障害を中心に、ディサースリア臨床研究、Vol13, No1 2023					
【参考書】					
・加藤元一郎：記憶障害の病態、最新医学, 47-55 - pieronline. jp 2003 ・豊倉穰：注意障害の臨床、高次脳機能研究、vol28、No3、2008 ・福井俊哉：遂行（実行）機能をめぐって、認知神経科学、vol12, No3-4 , 156-164, 2010					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
授業評価基準は本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従います。 課題をまとめ授業中に発表します。発表後のコメントや討議内容を考察しレポートにまとめます。そのレポート（50％）と学期末の試験（50％）で成績を評価します。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50			50				100
評価 指標	取り込む力・知識	25							25
	思考・推論・創造の力	25							25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				25				25
	学修に取り組む姿勢				25				25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・講義概要と実施方法の説明 ・高次脳機能とその障害に関する基本的知識 ・注意障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法	講義	・資料を読んでおく。 ・高次脳機能とその障害の定義を説明できる。 ・注意障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法を説明できる。	220分
2	・注意障害のリハビリテーション	講義	・注意障害のリハビリテーションに関する文献を選択し、まとめる。	220分
3	・注意障害のリハビリテーションに関する文献を発表する。発表に対する各自の意見で討議する。 ・記憶障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法	講義・討議	・注意障害のリハビリテーションに関する発表と討議を基にレポートでまとめる。 ・記憶障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法を説明できる。	220分
4	・記憶障害のリハビリテーション	講義	・記憶障害のリハビリテーションに関する文献を選択し、まとめる。	220分
5	・記憶障害のリハビリテーションに関する文献を発表する。発表に対する各自の意見で討議する。 ・行為障害・遂行機能障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法	講義・討議	・記憶障害のリハビリテーションに関する発表と討議を基にレポートでまとめる。 ・行為障害・遂行機能障害の定義、種類と症状分析・把握、評価の方法が説明できる	220分
6	・行為障害・遂行機能障害のリハビリテーション	講義	・行為障害・遂行機能障害のリハビリテーションに関する文献を選択し、まとめる。	220分
7	・行為障害・遂行機能障害のリハビリテーションに関する文献を発表する。	講義・討議	・行為障害・遂行機能障害のリハビリテーションに関する発表と討議を基にレポートでまとめる。	220分
8	・注意・記憶・行為・遂行機能障害のリハビリテーションに関する意見を発表する。 ・試験	講義・討議	高次脳機能障害のリハビリテーションを説明できる。	220分

【科目名】 視覚機能障害		【担当教員】 武田 克彦、伊林 克彦
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbh115	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	武田：k-takeda@sk9.so-net.ne.jp 伊林：ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 武田：メール対応 伊林：水曜午後
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 用語がわかりにくいので、適宜参考書にあたることを勧める。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートを課す予定であるが、質問等あれば、コメントを返すなどの対応をする。（武田） 質問などに対し、メール又は口頭で随時対応を行う。（伊林） (受講のルールに関わる情報・予備知識) 視覚に関する神経解剖学的な知識が必要となる。 学部等で学んだ当該領域の復習を十分にすること。 生成AIについては、例えばある病態の名前が出ないなどで時間をムダにしないために少し利用するなどは禁じないが、自身で考える、調べる、レポートを書くなどでは生成AIの利用はしないことを守ってもらいたい。レポートの課題などでは思考を深める問題として安易にAIを活用できないものにするなど工夫する予定である。		
【講義概要】 (目的) 高次の視覚機能の障害には物品、顔、色、文字などがわからないなどがある。それらの刺激が脳でどのように処理されていて、どう障害されるかを学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を培う。 (方法) 講義は、資料を配付し、スライドを使用して行う。随時質問なども受けつける。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・高次の視覚機能にはどのようなものがあり、その症候を理解する。 その障害が脳の構造とどのような関連があつて生じているかを説明できるようにする。		
【行動目標 (SB0)】 ・高次の視覚機能障害の個々の症状を説明できる。その症状がどのような脳の構造が障害されたために生じているかを説明できる。このような症状を持った患者さんを診察したりその症状に対応できるようにする。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配付する。		
【参考書】 武田克彦：「ベッドサイドの神経心理学」改訂2版 中外医学社 2009 武田克彦、村井俊哉：「高次脳機能障害の考え方と画像診断」 中外医学社 2016		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 授業への出席及び積極性などの評価（20％）、レポートを提出していただきその評価（80％）、これらの総合で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価 指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	視覚の基礎を学ぶ。眼（網膜など）、視神経、視 覚野の構造と働きを知る。	講義（武田）	眼のしくみ、視力、視野、後頭葉の 構造などについて 予習：知っていることを整理する 復習：学修した内容をまとめる	90 90
2	高次の視覚情報処理として運動視、色覚などに ついて学ぶ。盲視とって見えないはずのところに 提示された刺激の処理についても学ぶ。	講義（武田）	高次の視覚野、運動や色についての 脳の機構、その障害について 予習：これまでに学んだことの整理 復習：学修した内容をまとめる	90 90
3	視覚失認とは何か、その症状なぜその症状が生 じるのかなどについて学ぶ。	講義（武田）	失認ということの理解は難しいの で、いろいろな神経心理学の本にあ たることを勧める。 予習：これまで学んだことを整理 復習：いくつか本を読んで理解する	90 90
4	文字の脳内処理、その障害である純粋失読につ いて学ぶ。	講義（武田）	純粋失読について参考書などを読んで 復習などしてください。 予習：失語のところを整理する 復習：学修した内容をまとめる	90 90
5	心的イメージについて学ぶ イメージの処理がどのような脳内処理でなされ るのかなどである。	講義（武田）	心的イメージの障害などについては 各個人で推論が可能はずであり、 授業内容について各自が考えるこ とを勧める。予習：イメージについて 考える。復習：関連の本にあたる	90 90
6	右半球機能 右半球における認知障害	講義（伊林）	右半球全体における各種の認知障害 を書物により予習する。	180
7	無視 左右の頭頂葉症状と半側空間無視	講義（伊林）	無視に関係する左右の脳半球特に 側頭・後頭葉の接合部における機能 を予め調べる。	180
8	注意障害 認知機能の中の注意障害について	講義（伊林）	注意障害に関係する前頭葉や頭頂葉 の神経学的基盤について予習する。	180

【科目名】		発達障害		【担当教員】	内山 千鶴子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbhs 116	(メールアドレス) c.uchiyama@nur.ac.jp	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 随時メールで質問・相談に応じます	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
毎回参考書や資料の予習と前回授業の復習を行ってください。 発達および発達障害に関する基礎的知識を復習しておいてください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
双方向授業のため、問題意識・課題をもって積極的な意見や疑問のやりとりを行いましょう。 生成AIの活用は認めますが、どのように使用したか明確にしてください。特に、レポートでは生成AIによる意見とご自分の意見を明記してください。					
【講義概要】					
(目的)					
・発達障害の概念と基本的知識を理解する。 ・発達障害に症状と評価および指導に関する知識を理解する。					
・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
・発達障害に関する概念を理解し、行動特徴から支援の方向性を考える。 ・具体的な支援やリハビリテーション・研究を考える。					
・課題に対するフィードバックは、講義内で行う。					
【一般教育目標 (GIO)】					
発達障害を理解するために、人間の行動と言語発達を複雑な階層から理解できるようになる。					
【行動目標 (SB0)】					
発達障害の基本的概念を概説できる。 発達障害の行動特徴と認知、言語の症状を説明できる。 各発達障害の症状評価ができ、指導方法を計画・考察することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
授業時に資料を配布する。					
【参考書】					
・言語発達障害学第3版、深浦順一他編、医学書院 5,500円 ・言語聴覚士のための言語発達障害学第2版、石田宏代他編、医歯薬出版、4,400円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 レポート50%、試験50%の割合で成績評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	25		25					50
	思考・推論・創造の力			25					25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	25							25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	発達障害の概念 ・発達障害の定義 ・発達障害の種類 ・発達障害の原因	講義	配布資料を読む。	220分
2	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・知的障害 ・自閉症スペクトラム障害 ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	220分
3	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・学習障害 ・前回提示された症例の課題を討論する ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	220分
4	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・特異的言語発達障害 ・前回提示された症例の課題を討論する ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	220分
5	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・知的障害 ・前回提示された症例の課題を討論する ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	240分
6	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・知的障害 ・前回提示された症例の課題を討論する ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	240分
7	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・注意・欠如多動性障害 ・前回提示された症例の課題を討論する ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	220分
8	発達障害の地域包括支援 ・幼児の支援-児童福祉法 ・児童の支援-学校教育法 ・成人の支援-発達障害者支援法 ・前回提示された症例の課題を討論する	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	220分

【科目名】失語・失読・失書		【担当教員】道関 京子
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmhs 117	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	kei.doseki@gmail.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) メール
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目の履修に際しては、失語症のタイプや言語症状についての基礎知識を前提にしているため、それらについて復習しておくこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・日本語学・心理学の知識も深めながら講義・討議するため、積極的・能動的に受講すること。 ・生成系 AI の利用を制限はしないが、授業内、予復習、成果物（まとめ・課題発表）において使用した場合には、その旨を明示し、かならず自身の意見と分けて提示すること。		
【講義概要】 (目的) ・高次脳機能障害の代表として失語症・失読症・失書症を構造的に理解する。 ・発話文の成り立ちと構造を科学的に理解し、リハビリテーションに活用する力を身につける。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) ・失語の問題を文法論研究の観点から展開する。 ・講義ごとに失語リハビリテーションの臨床研究への考察も探求していく。 ・課題やレポート等に対するフィードバックの方法は、質問や意見およびレポート課題に対して解説し、時間外にも延長し十分時間をとる。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・失語症を構造的に把握するため、文法（統語）と語（命名）の質的研究力を培う。 ・言語科学的考察からの失語症リハビリテーションを理解する。		
【行動目標 (SB0)】 ・失語症の各症候群の中心問題を鑑別できる。 ・失語症の話しことばの文法構造の問題について説明できる。 ・健忘失語の呼称や語想起障害の構造面を解説できる。 ・失語症のリハビリテーション企画の基礎を習得できる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・渡辺実：国語文法論．笠間書院，1997．¥1,760（税込）． ・毎回、資料を配布する。		
【参考書】 ・道関京子：新版失語症のリハビリテーション全体構造法、基礎・応用編，医歯薬出版，2016．¥4,180・¥4,400（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価は、毎回のまとめ・課題発表50％、レポート50％の割合で評価する。 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価 指標	取り込む力・知識			25	25				50
	思考・推論・創造の力			25	25				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	<ul style="list-style-type: none"> 失語症研究の課題と問題点 文法（統語）論の対象 発話（話しことば）を対象とする 基本用語の説明 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 予習：失語症の整理を行う 文法基本用語の内容を復習する 	180分
2	<ul style="list-style-type: none"> 発話文の文法とは 語の文中における機能の研究 各文法研究（語用論を含む） 失語評価やリハビリへ文法論の必要性 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 失語症理解における文法論の必要性を復習する 文法論の評価、リハビリへの要点を発表できるようまとめる。 	180分
3	<ul style="list-style-type: none"> 統叙機能の理解 失語の流暢性判定における話しことばの単位 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 統叙の機能について復習する 流暢性判断を具体的にまとめて発表の準備をする 	180分
4	<ul style="list-style-type: none"> 陳述（モダリティ）機能の理解 陳述障害による失文法（超皮質性運動失語） 超皮質性運動失語のリハビリテーション 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 陳述機能について復習する 超皮質性運動失語の発話特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
5	<ul style="list-style-type: none"> 叙述（日本語格関係）機能の理解 叙述障害による失文法（Broca失語） Broca失語のリハビリテーション 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 叙述機能について復習する。 Broca失語の発話特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
6	<ul style="list-style-type: none"> 連体の機能の理解 格助詞から構成される準空間障害による理解障害（健忘失語，意味性失語，意味性認知症） 健忘失語のリハビリテーション 	課題検討 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 連体機能について復習する 健忘失語の理解障害の特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
7	<ul style="list-style-type: none"> 発話体系から失語の問題とリハビリを探究 1 ー全失語、Broca失語、超皮質性運動失語、伝導失語ー 	課題検討 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 各タイプの失語の発話特徴を復習する 全失語と伝導失語の発話特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
8	<ul style="list-style-type: none"> 発話体系から失語の問題とリハビリを探究 2 ーWernicke失語、超皮質性感覚失語、健忘失語、皮質下性の失語様症状群ー 	課題検討 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 各タイプの失語の発話特徴を復習する Wernicke失語、超皮質性感覚失語皮質下性失語様群をまとめる 	220分

【科目名】		認知科学・認知機能障害		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmh205	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー)火曜日午後	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
学部で履修した神経学や神経解剖学を予習しておくことが望ましい。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
その日学んだ事柄について頭の中で整理できるまで十分復習する。 生成AIの利用は不可とする。					
【講義概要】					
(目的)					
記憶障害や行為・遂行機能障害、失語症等を含む高次脳機能障害に罹患し、日常生活及び社会生活に支障をきたす認知症について包括的に学ぶ。また、認知症の病態を検索するためのWAIS-R, Wisconsin Card Sorting Test, 及びCDR等種々の神経心理学検査法を履修する。認知症患者の行動を分析し、脳血管性認知症と変性疾患による認知症との鑑別についても学ぶ。					
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
さらに各種の検査法を用いて認知症の症状を抽出し、それらの症状についての対応を学ぶ。そのうえで認知症の症状を段階的にとらえ、家庭内や地域におけるリハビリテーションの可能性について各ステージ毎に模索する。加えて認知症患者の治療法についても種々の文献検索等を通して実践的に学ぶ。					
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 質問などに対し、メール又は口頭で随時対応を行う。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・ 認知症患者の病態について、疾患別・原因別に分けてそれぞれの障害像を把握する。					
【行動目標 (SB0)】					
・ 認知症患者に役立つトレーニング機器の研究及び開発を心がける。					
【教科書・リザーブブック】					
プリント配付、パワーポイントによる講義					
【参考書】					
「痴呆の臨床」 目黒謙一著 2004年（医学書院）2800円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。試験80％、授業・課題への取り組み20％の割合で総合的に評価を行う。 1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は他に課題を課す。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	80						20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	認知症とは。 記憶障害 認知症の定義と評価法	講義	WAIS・MMSEなどの知能および認知検査の復習	220
2	血管性認知症と変性疾患による認知症。 見当識障害と視空間機能の障害 血管性認知症および変性疾患で生ずる認知症の成立機序を学ぶ	講義	脳血管障害や変性疾患の類型と特質を知る。	220
3	行為障害 認知症の評価（実践Ⅰ） 行為障害の病態を知る。 各種認知機能の検査法を実践する。	講義・実技	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
4	認知症の評価（実践Ⅱ） ディスカッション 各種認知機能の検査法を実践する。 3までに学んだ事柄につき検討する。	講義・実技・討議	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
5	認知症の評価（実践Ⅲ） 各種認知機能の検査法を実践する。	講義・実技	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
6	認知症の治療・訓練（Ⅰ） 認知症の治療・訓練を実践する。	講義・実技	認知症の治療・訓練の復習	220
7	認知症の治療・訓練（Ⅱ） 認知症の治療・訓練を実践する。	講義・実技	認知症の治療・訓練の復習	220
8	まとめ	講義	復習	220

【科目名】運動機能科学総論		【担当教員】高橋 洋
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbMhs118	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	hiroshit@nur.ac.jp
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 来校時に随時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 運動機能科学コースの学生は必修科目 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、予習復習レポート作成において自由に利用してください。使用した場合その旨をレポートに記載してください。		
【講義概要】 (目的) 理学療法関連分野の運動器等の関する様々な考え方アプローチ方法を発見分析し、自ら考える能力を培う。 (方法) 配布資料を使用し、スライドによる講義、実技のデモンストレーションを行います。レポートにコメントを付して返却します。		
【一般教育目標 (GIO)】 理学療法及び関連分野の知識・とらえ方・アプローチの方法等を知り仕事・学業のヒントとする。 【行動目標 (SB0)】 研究分野との関連性を考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 プリントを配布する。		
【参考書】 配布資料に書かれている図書の欄を参照してください。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価はレポート100%で行う。成績評価基準は、新潟リハビリテーション大学学則・授業科目の履修方法・試験評価規定及びその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 「姿勢コントロール」(Jane Johnson著 武田功弓岡光徳監訳 医歯薬出版)	講義	解剖、運動学の予習	180分
2	「Individual Muscle Stretching ストレッチング 第2版」 鈴木重行編 三輪書店	講義	1 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分
3	「マッスルインバランスの理学療法」 荒木茂 運動と医学の出版社	講義	2 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分
4	「運動のつながりから導く肩の理学療法」 千葉真一編 文光堂	講義	3 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分
5	「体幹と骨盤の評価と運動療法」 鈴木俊明監修	講義	4 コマの講義内容の復習 運動学の予習	180分
6	「体幹と骨盤の評価と運動療法」 鈴木俊明監修	講義	5 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分
7	「コアセラピーの理論と実践」 平沼憲治 岩崎由純 監修 講談社	講義	6 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分
8	「コアセラピーの理論と実践」 平沼憲治 岩崎由純 監修 講談社	講義	7 コマの講義内容の復習 解剖の予習	180分

【科目名】		地域・老年期リハビリテーション論		【担当教員】		小林 量作	
【授業区分】		専門科目		【授業コード】		dbmh 119	
【開講時期】		後期		【選択必修】		選択	
【単位数】		2		【コマ数】		15	
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】							
1. 講義課題について：各自からレポートを提出してもらい、そのレポートは教員のコメントも加えて履修学生で共有する。							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
1. 欠席は事前に教員へ連絡する。予習では最低1つの質問を準備しておく。							
2. 対面授業では最低1回の発言をする。							
【講義概要】							
(目的)							
1. 老年期（高齢者）に伴う様々な医学的問題、社会的問題、現在のトピックスについて理解する。							
2. 地域リハビリテーション（以下、リハ）、地域理学療法の通所、訪問、介護予防について理解する。							
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】							
専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培い、問題解決できる能力を身に付けることで社会に貢献する。							
(方法)							
1. オンデマンド授業視聴後に対面授業と組み合わせで実施する。							
2. オンデマンド視聴後は、指定のFormsに、必ず質問（学生自身で調べて後に理解できない点）を入れて返信をする。							
3. 対面授業では、学生自身の研究テーマに関連した視点から質問して、積極的に討論に参加する。							
【一般教育目標 (GIO)】							
1. 老年期では、超高齢社会の現状・課題、医学的トピックスであるのロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイルなどについて概論を修得する。							
2. 地域リハの訪問、通所、ヘルスプロモーション、地域包括ケアシステム、介護予防の概論を修得する。							
【行動目標 (SBO)】							
1. 超高齢社会の現状と課題について説明できる。							
2. 老年症候群、ロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイル、転倒・骨折、筋力増強など最近のトピックスについて説明できる。							
3. 地域リハの考え方、実際について説明できる。							
【教科書・リザーブドブック】							
指定なし。 授業テーマに応じて資料を提供する。							
【参考書】							
1. 牧迫飛雄馬、他、編、『高齢者理学療法』2017. 東京. 医歯薬出版.							
2. 金谷さとみ、他、編、『地域理学療法』（第5版）2022. 東京. 医学書院.							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。							
2. 成績評価は、レポート・出欠・テストにより総合的に評価する。							
3. 試験、レポートで評価を行う。							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			40	60					100
評価 指標	取り込む力・知識		20	30					50
	思考・推論・創造の力		20	30					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 超高齢社会の課題 ・授業の進め方、履修学生の紹介など ・社会的問題、医学的問題①	講義:小林	予習	180分
2	高齢者の医学的トピックス ・高齢者の医学的問題② ・老年症候群	講義:小林	予習 (前回講義の理解) 小テスト	180分
3	高齢者の医学的トピックス2 ・ロコモティブ症候群	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分
4	高齢者の医学的トピックス3 ・サルコペニア	講義:小林	予習 (前回講義の理解) 小テスト	180分
5	高齢者の医学的トピックス4 ・フレイル	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分
6	高齢者の医学的トピックス5 ・転倒・骨折	講義:小林	予習 (前回講義の理解) 小テスト	180分
7	高齢者の医学的トピックス6 ・認知症 ・レポート課題について	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分
8	地域リハビリテーションとは ・地域リハの定義・範囲、CBR、地域包括ケアシステム	講義:小林	予習 (前回講義の理解) 小テスト	180分

9	通所理学療法 ・通所理学療法の実際、事例検討など	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分
10	訪問理学療法 ・訪問理学療法の実際、事例検討など	講義:小林	予習 (前回講義の理解) 小テスト	180分
11	ヘルスプロモーション ・介護予防 ・アプローチ方法	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分
12	地域リハとリスク管理 第1回 ・リスク管理とは、高齢者のリスク	講義:小林	予習 (前回講義の理解) 小テスト	180分
13	地域リハとリスク管理 第2回 ・在宅でのリスク管理	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分
14	地域リハと予防 ・予防とは、地域「通いの場」など	講義:小林	予習 (前回講義の理解) 小テスト	180分
15	授業全体のまとめ ・これまでの授業での質問・討論	講義:小林	予習 (前回講義の理解)	180分

【科目名】生活環境科学（住環境・ADL）		【担当教員】木村 和樹
【授業区分】専門科目	【授業コード】dmh122	(メールアドレス) k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】後期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8コマ	
(オフィスアワー) 月曜日12時40分～13時30分		
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
模擬高齢者体験は校内で行うため、教員の指導に従って行動すること。退院支援や在宅でのリハビリテーションを実施してきた経験から、高齢者などの模擬体験を通じて、医療職として必要な知識を講じる。 そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
講義中は私語を慎み、学ぶ姿勢をもって望むこと。 レポート課題においては生成AIの活用をせずに、模擬体験を元に作成を行うこと。		
【講義概要】		
(目的)		
在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その方法や種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学修する。また、住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学修することを目的とする。 ※当該科目学位授与方針等との関連性；A-2, P-2		
(方法)		
高齢者は日常生活で環境的なバリアを感じることもあるため、実際に福祉用具・車いすを用いながら疑似体験を行う。 学生の理解度確認等のために、クリッカー等を使用する。 レポートに関しては、作成後に添削を行い随時、フィードバックを行う。		
【一般教育目標 (GIO)】		
理学療法士は、対象とする人の身体的および精神的機能の維持向上を図るだけではなく、各人がおかれている生活環境の中で、より豊かに自立した生活が送れるように支援することが求められる。そのために模擬患者を経験して生活環境でのバリアなどを理解することを目標とする。		
【行動目標 (SB0)】		
①生活環境の概要について説明できる。 ②住宅改修や福祉用具を活用するために必要な法的制度について説明できる。 ③模擬高齢者などの体験をして、環境条件の影響を理解することができる。		
【教科書・リザーブドブック】		
【参考書】		
鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017 伊藤利之・江藤文夫（編）：新版日常生活活動（ADL），評価と支援の実際，医歯薬出版，2010 野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論，第2版，三輪書店，2014		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。 レポートにより総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50			50		100
評価 指標	取り込む力・知識			20			20		40
	思考・推論・創造の力			20			20		40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10			10		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 生活環境学の概念	講義	生活環境学の概念を復習する。	180分
2	日常生活を支援する機器 (自助具、歩行補助具、車いす)	講義	演習に向けて日常生活を支援する機器の使い方を理解する。	180分
3. 4	車いす体験	演習	車いすの乗車者と介助者を体験して、車いすの操作方法を学ぶ。 生活環境で高齢者に障害となる場面を理解する。	180分
5. 6	模擬片麻痺体験	演習	車いすの乗車者と介助者を体験して、車いすの操作方法を学ぶ。 生活環境で高齢者に障害となる場面を理解する。	180分
7. 8	模擬体験のまとめ	講義	レポートを作成できるように体験の内容をまとめる。必要に応じて添削を行い再提出を行う。	180分

【科目名】 動作測定技法Ⅰ		【担当教員】 木村 和樹
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dm127	(メールアドレス) k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 月曜日12時40分～13時30分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この授業はWEB授業対応授業です（Office365の設定が必要です）。 ・演習に関しては対面で行いますが、WEBで受講される場合はMicrosoft Teamsを使用し演習で計測したデータの配布を行います。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題レポートの解答例を授業内で説明します。 ・提出された課題レポートは受講者全員または個人にコメントをするため、課題は必ず期限内に出すようにしてください。		
【講義概要】 (目的) この講座では、動作分析で用いる加速度、重心動揺、静止画などから身体の動きを分析する手法を学びます。また測定の基本的原理について解説していきます。身体の動きを数値化されたデータにして研究に応用します。 当該授業科目と学位授与方針等との関連性：高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う。		
(方法) 実際に計測を行い、データを分析する。 自身で測定したデータを分析して発表を行う。 学生の理解度確認等のために、クリッカー等を使用する。 レポートに関しては、作成後に添削を行い随時、フィードバックを行う。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・動作分析の基本的原理を理解する。 ・加速度、重心動揺、スパイロメータなどの測定手技について理解する。		
【行動目標 (SB0)】 ・動作分析の基本的原理を説明できる。 ・加速度、足底圧、重心動揺の測定が行える。 ・画像から姿勢を分析することができる。 ・呼気ガス分析装置の測定が行える。		
【教科書・リザーブドブック】 ・必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・必要に応じ資料を配布する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート50%、発表30%、授業に取り組む姿勢20%(宿題・ノートの整理状況など)とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50			50		100
評価 指標	取り込む力・知識			30			30		60
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20			20		40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション ・動作分析の基礎的理解	(講義・演習) ・授業の進め方を説明する。	・筋電図について調べておく。	180分
2	・加速度計を用いた測定	(講義・演習)	・加速度計の測定方法について調べておく。	180分
3・4	・足底圧、重心動揺計を用いた測定	(講義・演習)	・重心動揺の測定方法について調べておく。	180分
5・6	・静止画からの姿勢分析	(講義・演習)	・image-Jについて調べておく。 ・課題作成	180分
7・8	・呼吸機能の分析	(講義・演習)	・呼気ガス分析装置、スパイロメータについて調べる。 ・課題提出	180分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			20				20	40
	思考・推論・創造の力			20				10	30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			20				10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生活支援と環境支援 (食事を中心に)	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
2	脊髄損傷とデバイス	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
3	車椅子による環境支援① (概要)	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
4	車椅子による環境支援② (事例検討を通して)	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
5	スプリント・義手による環境支援	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
6	脳卒中に対する環境支援	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
7	運転支援とデバイス	講義、演習	講義内容について、予習・復習	180
8	目標設定とデバイス	講義	講義内容について、予習・復習	180

【科目名】		運動発達障害特論		【担当教員】	押木 利英子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh 130	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	oshiki@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月、木 11：00 ～ 16：00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
基本的な正常運動発達について理解している、または興味・関心があることが望ましい。 ＊この科目は小児医療センター等で臨床経験を積んだ実務家教員が担当します。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
事前に正常運動発達、運動発達障害に関する知識の整理、及び文献を調べておくことが望ましい。受講者の背景に合わせて、レポートの添削を行う。個人の希望や必要に応じて解説する。【課題】毎回（1～7回）授業の後半に簡単な課題を出す。この課題に対してレポートを作成し、発表し提出する。【試験】筆記試験は行わない。最終回後に事例検討レポートを課し、これと毎回提出のレポートとの総合点を試験結果とする。					
【講義概要】					
(目的)					
運動発達障害の概念や発生機序を理解するとともに、運動障害児の治療効果検証について理解することを目的にする。また、発達理論や研究法の学習を通して最新の知見を学び、PT、OT、STの視点から小児リハビリテーションあり方について学ぶ。					
(方法)					
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 毎回、講義内容に関連するレポート作成を課します。 最終試験は、授業全体を通しての課題レポート作成とします。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・運動発達障害の機序について理解する。 ・運動発達と知覚・認知・行動発達の関係性について理解する。 ・運動発達障害に対する最新の知見を習得する。					
【行動目標 (SB0)】					
・小児リハビリテーションのフィールドにおいて、運動発達の重要性と具体的な提言が出来る。					
【教科書・リザーブドブック】					
・特になし（講義中に随時紹介する）					
【参考書】					
・特になし（講義中に随時紹介する）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・毎回の授業後課題70％、事例検討レポート30％の提出状況、内容を評価し、単位授与とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80	20				100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	運動発達とは何かその視点 運動発達の機序について概説する	講義	正常運動発達について理解する	180分
2	運動発達の特徴と原理 “動くこと” “動けること” (発達の原点) の意味を考える	講義	発達指標について理解する	180分
3	運動発達障害特論 (1) 運動発達と脳の可塑性について ～その可能性と障害～	講義	運動発達の多様性について理解する	180分
4	運動発達障害特論 (2) 運動発達の阻害因子の見方と小児理学療法の治療体系	講義	事例を通して小児理学療法の治療体系について理解する。	180分
5	運動発達評価と発達原理 発達検査と評価の方法、 運動学習システムと発達理論	講義	子どものハビリテーションについて考える。	180分
6	私の臨床研究論と紹介 運動発達障害研究に対する私論と今までやってきた研究の紹介と解説	講義	自分自身の研究の意義を考える	180分
7	臨床活動における連携協働の重要性 小児臨床における連携教育 (I P E) と連携協働 (I P W) の重要性について ～その歴史と現状～	講義	あなたの I P E, I P Wを振り返る	180分
8	事例検討 まとめ	事例検討 (モジュールを使用して) レポート作成	提示された事例について検討する。	180分

【科目名】 心の健康科学総論(心の健康教育に関する理論と実践)		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmHs 131	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	gskanri2020@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 出講時及び随時メールにて応じます
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>※本科目は、心の健康科学コースの必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学院での心の健康科学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害や精神機能障害へのリハビリテーション）から、「心の健康教育に関する理論と実践」について講じていきます。 「心の健康」は、保健医療、福祉、教育、産業・労働、そして司法・犯罪の全ての領域において重要な課題です。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>欠席する場合は事前に連絡してください。その場合、資料は後日配布し、必要があれば振替講義を検討します。 積極的態度で受講し、関心あるテーマは自身で情報収集して問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。 授業中に実施した心理テスト等のデータは各自で確認し、提出を求めません。生成系 AI の利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記してください。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>多様な価値観、高度に複雑化した競争社会の中で、緩むことのない心の緊張が「心の病」を生み出し、さまざまな疾患を発症させています。本科目では、ストレスのメカニズムとその対処法（ストレス・マネジメント）について、基本的な知識を講じていきます。将来、「心の健康」に関する知識の普及をも図ることができるよう、その支援/教育法にも触れていきます。 【当該科目と学位授与方針との関連性】「専門領域に関する多様な課題を発見・分析し、自ら解決する能力を培う。」</p> <p>(方法)</p> <p>配布資料に基づき、Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。参考資料や関連法規等は、授業中に紹介します。講義内容に関連した調査や心理テストを実施します。その場合、目的や結果の意味するところは解説しますが、各人の結果データの提出は求めません。 課題レポートについては、評価基準を講義内で説明します。 また、講義内容に関連したテーマについてグループ討論をした場合は、グループ発表を実施します。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>「健康とは何か？」を国際的定義から説明できる。 ストレスが脳、身体、心、認知や行動へ及ぼす影響、そして疾患との関係を科学的根拠に基づいて説明できる。 日常生活や社会生活全般において、「心の健康」が良好な人間関係の構築に必須であること、そして各人の幸福感、延いては健全な社会の発展に繋がることを理解する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>‘いじめ’や自殺は現代の大きな社会問題です。その根底に潜むストレスを心理・社会的側面と神経生理的側面からも正しく理解し、適切な心の支援へと繋ぐことができる。 心の健康の維持増進のために、あるいはそれが損なわれたケースに対して、適切な心理学的支援ができる。 ライフサイクルにおける各年代、社会的役割等におけるストレス要因を知り、適切な健康管理ができる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず、必要な資料（関連法規を含む）は配布する。 講義内容に関連し、厚生労働省が発信している「心の健康」に関するサイトは随時、紹介していく。</p>		
<p>【参考書】</p> <p>ラザルス&フォークマン著・本明寛他訳／ストレスの心理学／実務教育出版／1991年／5,872円 厚生労働省「健康日本21（第二次）」内、「こころの健康」を参照のこと。 Newton 別冊ムック「脳と心：脳の最新科学,そして心との関係」(株)ニュートンプレス(2010/11/15) ¥2,415（税込）</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>授業への能動的/積極的な受講態度及び参加30%、レポート課題70%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。 成績評価基準は本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程及びその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 * 障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70	10		20		100
評価 指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	健康心理学とは？ ・「健康」の定義 【演習】精神健康調査票（GHQ 28） ストレスとは？ ・ストレスとストレス反応	講義	【予習】WHOのQOLの定義から「心の健康」を理解しておく。【復習】精神健康調査票（GHQ 28）の結果を考察し、「心の健康」の構成要因を再確認する。	60分 120分
2	ストレスに対する心理的反応 ・不安 【演習】顕在性不安尺度(MAS) ・怒りと攻撃性 ・アパシーと抑うつ感	講義 実技	【予習】ストレスと心理的反応の関係を確認しておく。 【復習】顕在性不安尺度(MAS)の結果を考察する。	60分 120分
3	ストレスに対する生理的反応（身体への影響） ・闘争・逃走反応 ・汎適応症候群 ・タイプA行動とその修正支援	講義	【予習】ストレスと生理的反応の関係を確認しておく。 【復習】タイプA行動チェックの結果を考察する。	60分 120分
4	PTSD ・PTSDの定義 【演習】PTSD Checklist (PCL) ・PTSDの発症要因 ・発症メカニズム ・自然災害とPTSD ・心理学的支援法	講義 実技	【予習】ASD及びPTSDの定義を確認しておく。 【復習】PTSDチェック項目から、その発症要因を把握する。	60分 120分
5	ストレスによる健康への影響 ・ライフサイクルとストレス ストレス関連疾患 ・パニック障害 ・うつ 【演習】BDI/SDS ・依存症（薬物、アルコール等）	講義 実技	【予習】20～30代の「働き方」をワークライフバランスの観点から検討する。 【復習】BDI/SDSの結果から「うつ症状」を考察する。	60分 120分
6	ストレス理論 ストレス耐性 ・精神分析理論 ・行動理論 ・認知理論 ・ハーディネス ・楽観主義 ・意味を見出す	講義 討議（グループディスカッション）	【予習】各学派の理論、基本的な考え方を確認しておく。【復習】身近なストレス事例を想定し、各学派の考え方から検討し、具体的な心の支援の実践法を考案する。	60分 120分
7	ストレスコーピング 自殺予防 ・行動療法・運動療法・認知行動療法 ・自己コントロール/心理的サポート ・リスク要因と適切な予防法	講義 討議（グループディスカッション）	【予習】各学派の理論、基本的な考え方を確認しておく。【復習】身近なストレス事例を想定し、各学派の考え方から検討し、具体的な心の支援の実践法を考案する。	60分 120分
8	「孤独・孤立対策推進法」の概説 「心の健康づくり」の支援 事例検討：家庭/学校/職場でのストレス要因と児童虐待/いじめ/高齢者虐待の実態【演習】WHO SUBI: The Subjective Well-being Inventory	講義 討議：事例検討 発表	【予習】”いじめ”の原因・要因を推察し、列挙する。【復習】以上を踏まえ、多角的に「心の健康づくり」を提言する。SUBIの結果を考察し、Well-beingの概念を理解する。	60分 120分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	30			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・エリクソンの心理的社会的発達論とアイデンティティ形成 ・乳幼児期の「身体」、「運動機能」の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
2	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅰ 乳児期 ・言語発達、コミュニケーションとアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
3	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅱ 幼児初期 ・情緒(感情)の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
4	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅲ 遊戯期 [幼児期後期] ・乳幼児期の「遊び」の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
5	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅳ 学童期 ・社会性の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
6	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅴ 思春期・ 青年期(1) ・「記憶」「知覚」の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
7	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅴ 思春期・ 青年期(2) ・向社会性と道德性の発達とアイデンティティ形成	講義	講義プリントの復習	180分
8	・エリクソンの心理的社会的発達論Ⅵ～Ⅷ 成人 前期～成人後期 ・「自己」の発達について	講義	講義プリントの復習	180分

【科目名】		キャリア形成とリハビリテーション心理学(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmH 135	(メールアドレス) gskanri2020@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 出講時及び随時メールにて応じます	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
※本科目は、心の健康科学コースの必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学及び大学院でのキャリア支援教育に関する実務経験、及び保健・医療福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害や精神機能障害者への就労支援）から、「産業・労働分野に関する理論と支援」について講じていきます。 健全なキャリア形成は、保健医療、福祉、教育、産業・労働、司法・犯罪の全ての領域において重要な課題です。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
欠席する場合は事前に連絡してください。その場合、資料は後日配布し、必要があれば振替講義を検討します。 積極的態度で受講し、関心あるテーマは自身で情報収集して問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。 授業中に実施した心理テスト等のデータは各自で確認し、提出を求めません。生成系 AI の利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記してください。					
【講義概要】					
(目的)					
人は生涯にわたり、社会生活や家庭生活での経験や役割を積み重ねていく中で各人のキャリアを形成していきます。中でも、働くことは生きがい、主観的幸福感に大きく関わっています。本講義を通じて、1)ライフサイクルの各段階でのキャリア形成の特徴と課題を学び、2)キャリア形成に伴う種々のストレス要因が関連している心身の疾患や社会の実態や問題を考察し、3)労働者のワーク・ライフ・バランスを保ち、メンタルヘルスを維持していくための知識・スキルを習得することを目的とします。【当該科目と学位授与方針との関連性】「専門領域に関する多様な課題を発見・分析し、自ら解決する能力を培う。」					
(方法)					
毎回、講義内容に関連する資料を配布し、Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 各テーマに関連した事例検討を実施し、グループまたは各自で分析・考察した後、発表を実施します。 心理テストも随時実施します。その場合、目的、実施法等は説明しますが、個人データの提出は求めません。 課題レポートについては、評価基準を講義内で説明します。					
【一般教育目標(GI0)】					
人生の各段階に応じて、多様な価値観に基づく生き方を各人が主体的に選択し実現できることを理解する。 ハラスメント等の職場でのストレス要因を理解し、その予防のための適切な心理的支援法を修得する。 ワークライフバランスの実現を目的とする関連法規の内容を理解する。 長期休業後の労働者のリワーク支援や障害者の就労支援を制度面と”心のケア”面から学ぶ。					
【行動目標(SB0)】					
自身の働き方を熟考するとともに、教育・保健医療・福祉・産業等の現場で心理職の専門家として対象者に適切な就労支援ができる。 「職場における心の健康づくり～労働者の心の健康の保持増進のための指針～」を理解し、適切な支援ができる。 「治療と仕事の両立の支援」の趣旨を理解し、働く場でのこころの健康増進を支援できる。 キャリア支援を通して（「孤独・孤立対策推進法」に基づく）孤独・孤立の予防支援ができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に指定せず。資料は配布します。 関連法規等はその都度説明いたします。					
【参考書】					
内閣府「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」「孤独・孤立対策推進法」 厚生労働省「こころの健康_健康日本2 1（第二次）」「職場における心の健康づくり」「治療と仕事の両立の支援」「仕事と生活の調和の実現に向けた取組の推進」等、関連する各種施策を参照のこと。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
授業への能動的/積極的な受講態度及び参加30%、レポート課題70%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。 成績評価基準は本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程及びその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 * 障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70	10		20		100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	キャリアとは何か？ ・自己概念の確立とキャリア形成 ・キャリア教育 ・離学者への就労支援 ・地域若者サポートステーションの役割	講義 実技：“キャリアレインボー”の作成 発表	【予習】アイデンティティとは何か（定義）を確認しておく。【復習】アイデンティティ形成に果たす職業アイデンティティの役割を理解する。	90分 90分
2	初期キャリアの形成と危機 ・新社会人のストレス ・ダイバーシティ・多様な価値観 ・男女雇用機会均等法・女性の社会進出	講義 討議（ディスカッション）	【予習】自身の就活での不安や問題点を具体的に列挙しておく。【復習】男女が共に協力し合い、一個人を社会全体で支えることが社会の発展に繋がることを理解する。	90分 90分
3	家庭生活と仕事・職場におけるメンタルヘルス ・M字型カーブとは ・ライフコースとワーク・ライフ・バランス ・「産休/育休制度」の変遷 ・子育てとワーク・ライフ・バランス	講義 実技：ストレスチェックの実施 討議（ディスカッション）	【予習】この先の自身のキャリア形成と日常生活のバランスを展望する。【復習】次世代の育成を仕事と両立する上での問題点を列挙し、それを解決する方策を提案する。	90分 90分
4	働く環境の問題 ・ストレスチェック制度 ・安全・快適な職場環境づくり ・労働安全衛生法 ・ハラスメント	講義 討議（事例検討：ディスカッション）	【予習】「働き方」に関する最近のニュースの中で、特に関心を抱いたテーマをまとめておく。【復習】職場の物的・人的環境が人の心身に及ぼす影響について考察する。	90分 90分
5	キャリア“停滞”への対応 ・パニック障害/うつ/過労死 ・職場復帰（リワーク）支援 ・治療と仕事の両立支援 ・労災／障害年金制度	講義 討議（事例検討：ディスカッション）	【予習】「ストレス反応」をこれまで学んだ知識で確認しておく。【復習】「労災」の定義（基準）から労働環境と疾患発症の関係を理解する。関連法規及び支援法を確認する。	90分 90分
6	職業・社会生活の変化 ・心身及び生活の変化と中年期危機 ・退職とアイデンティティの危機	講義 討議（ディスカッション）	【予習】「中年期危機」の要因を生物学的、社会的、心理的各側面から検討する。【復習】職業アイデンティティが各人の人格形成/幸福感に及ぼす影響を考察する。	90分 90分
7	障害者への就労支援 ・障害の概説と就労支援のポイント ・障害者雇用促進法 ・合理的配慮 ・社会的バリアの除去／心のバリアフリー	講義 討議（ディスカッション）	【予習】多様な価値観を受け容れ、共に生きる社会の実現するにはどうすればよいのかを考えておく。【復習】地域共生社会の実現に向けて「心のバリアフリー」を理解する。	90分 90分
8	まとめ ・キャリア形成と心の健康 ・働き方改革 ・事例検討	講義	【予習】「働き方改革」の概要を把握しておく。【復習】「レポート課題（事例検討）」を通して、関連法規を再確認し、支援法を検討する。	60分 120分

リハビリテーション医療学専攻

【科目名】高年齢とリハビリテーション心理学(福祉分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】大矢 薫	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmH213	(メールアドレス)	
【開講時期】前期	【選択必修】必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー)12:40～13:30（月～金、火除く）	
<div>【注意事項】</div> <div>(受講者に関わる情報・履修条件)</div> <p>学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <div>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</div> <p>本講義では、毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。</p>			
<div>【講義概要】</div> <div>(目的)</div> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 福祉分野に関わる公認心理師の実践を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」</p> <div>(方法)</div> <p>毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行う。 レポートに対するフィードバックは個別に対応するので、担当教員へ連絡すること。</p>			
<div>【一般教育目標(GIO)】</div> <p>福祉分野に関わる公認心理師の実践を理解する。</p>			
<div>【行動目標(SB0)】</div> <p>福祉分野に関わる公認心理師の実践を説明できる。</p>			
<div>【教科書・リザーブドブック】</div> <p>毎回、プリントや資料を配布する。</p>			
<div>【参考書】</div> <p>渡部純夫・本郷一夫 編 『福祉心理学』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税) 川畑隆・笹川宏樹・宮井研治 編 『福祉心理学』 ミネルヴァ書房 (2,200円＋税) 中島健一 編 『福祉心理学』 遠見書房 (2,600円＋税)</p>			
<div>【評価に関わる情報】</div> <div>(評価の基準・方法)</div> <p>成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、レポート50%、授業内でのディスカッション・ディベート50%の割合で評価する。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	超高齢社会	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	高齢者医療	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	支援者の専門技能	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	高齢者支援	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	認知症	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	精神疾患	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	高齢者虐待・介護者支援	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	喪失・幸福	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【科目名】精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）		【担当教員】的場 已知子	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmh136	(メールアドレス)	
【開講時期】後期	【選択必修】選択		
【単位数】1	【コマ数】8		
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
医療現場における心理学の要素を生かした実際の治療についてより深く学びます。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
守秘義務についての契約書の記入を求めます。受講者の目的（臨床イメージ）を明確に持って下さい。 生成AIの利用は不可とします。			
【講義概要】			
(目的)			
どのようにして個の機能の回復と共に精神機能の回復を促すべきかを学びます。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
(方法)			
自分自身との対話が必要となるため、精神的な問題を抱える方は注意が必要です。 レポートにコメントを付して返却します。			
【一般教育目標 (GIO)】			
医療現場における心理学的アプローチの方法を理解すること。			
【行動目標 (SB0)】			
自らの欠点を理解し、技術を向上すること。			
【教科書・リザーブドブック】			
公認心理師必携テキスト[学研プラス]			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート100%。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションの真の目的を理解する まず自分を知ること。その上で他者へのアプローチの仕方を知る	講義	事前に配布する資料に解答しておくこと	180
2	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションの介入時期について 介入する時期の違いによりアプローチの違い	講義	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
3	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションにおける職種の違いの理解と応用	講義	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
4	心理リハビリの実践1 (事例1)	実際の現場での ワークショップ を行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
5	心理リハビリの実践2 (事例2)	実際の現場での ワークショップ を行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
6	心理リハビリの実践3 (事例3)	実際の現場での ワークショップ を行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
7	心理リハビリの実践4 (事例4)	実際の現場での ワークショップ を行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	180
8	総論	自ら選んだ事例 に対してケース レポートをまと めてもらいます	事例を選んでおくこと	180

【科目名】精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）		【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh137
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	8
【メールアドレス】			
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）を受講している方が望ましい。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
守秘義務についての誓約書を求めます。 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 生成AIの利用は不可とします。			
【講義概要】			
(目的)			
心理リハビリの国際的理解を深める。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
(方法)			
リハビリテーション心理学における国際的視点を身に付け、広いフィールドワークで活躍できる能力を培えるように。 試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。			
【一般教育目標(GIO)】			
異文化に対する理解を深め、国際的に活躍できる能力を身につける。			
【行動目標(SB0)】			
様々な障壁を乗り越えて行動する力を持つ。			
【教科書・リザーブドブック】			
リハビリテーション心理学入門 〔荘道社〕			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート100%。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	国際的リハビリテーション心理 (アジア) 中国、台湾	講義	配布資料に目を通す	180
2	国際的リハビリテーション心理 (アジア) 韓国	講義	配布資料に目を通す	180
3	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) フランス	講義	配布資料に目を通す	180
4	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) スイス	講義	配布資料に目を通す	180
5	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) イギリス	講義	配布資料に目を通す	180
6	国際的リハビリテーション心理 (アメリカ他) アメリカ、カナダ	講義	配布資料に目を通す	180
7	国際的リハビリテーション心理におけるジェン ダーの問題 国際社会におけるジェンダーや様々な壁について	講義	配布資料に目を通す	180
8	総論 レポートをまとめ、評価を行う。	講義	レポートをまとめること	180

【科目名】 疾病と障害の共存とリハビリテーション心理学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】 中川 明仁	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmH138	(メールアドレス)	
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修		
【単位数】 1	【コマ数】 8		
(オフィスアワー) メールにて適宜対応			
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験を基に保健医療領域において心理職に求められる役割や知識および技術について学ぶ。 本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、産業カウンセラーまたは公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。			
【注意事項】 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・毎回講義動画を配信します。事例検討など学生の皆さんが主体となって展開される授業ですので積極的な参加を求めます。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。			
【講義概要】 (目的) 保健医療領域において求められる心理職の役割、知識および技術について学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
【講義概要】 (方法) 授業中に実施した課題についてはTeams内で講評の形式でフィードバックする。			
【一般教育目標 (GIO)】 保健医療領域における心理職の支援のあり方および他職種との連携について理解できる。			
【行動目標 (SB0)】 保健医療領域における心理職の役割について説明できる。 保健医療領域において支援を実践する上で必要な知識や技術について説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】 授業中の配付資料			
【参考書】 野島 和彦（監）／公認心理師分野別テキスト①保健医療分野 理論と支援の展開／創元社／2019年／2,400円＋税			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 授業中課題（レポート）、最終課題を通じて総合的に評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			40	60					100
評価 指標	取り込む力・知識		20	30					50
	思考・推論・創造の力		20	30					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・ガイダンス ・公認心理師法について 公認心理師の業務、信用失墜行為の禁止、秘密保持義務等	講義	公認心理師法について調べてみる	220
2	・保健医療分野におけるチーム医療の実践（１） 精神科、心療内科領域	講義・討論	講義プリントの復習 精神科や心療内科においてどのような職種がどのような役割で患者支援に携わっているのか理解する。	220
3	・保健医療分野におけるチーム医療の実践（２） 内科領域	講義・討論	講義プリントの復習 内科においてどのような職種がどのような役割で患者支援に携わっているのか理解する。	220
4	・保健医療分野における心理アセスメント パーソナリティ特性、抑うつ、不安の評価	講義・討論	講義プリントの復習 患者理解および支援のツールとしての心理検査について理解する。	220
5	・保健医療分野の事例検討（１） 発達段階の理解と子育て支援	講義・討論	講義プリントの復習 乳幼児支援における心理職の役割について事例検討を通して理解する。	220
6	・保健医療分野の事例検討（２） うつ病の理解と支援	講義・討論	講義プリントの復習 発達障害の病態および病態に合わせた支援のあり方について事例検討を通して理解する。	220
7	・保健医療分野の事例検討（３） 生活習慣病の理解と支援 主に糖尿病患者への支援	講義・討論	講義プリントの復習 糖尿病の病態および糖尿病患者特有の心理について学び、支援のあり方を理解する。	220
8	・保健医療分野の事例検討（４） 生活習慣病の理解と支援 主に肥満者への支援	講義・討論	講義プリントの復習 肥満の病態および肥満者特有の心理について学び、支援のあり方を理解する。	220

【科目名】心理アセスメント特論(心理的アセスメントに関する理論と実践)		【担当教員】大矢 薫	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmH210	(メールアドレス) ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【開講時期】前期	【選択必修】必修		
【単位数】2	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
本講義では、毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。			
【講義概要】			
(目的)			
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～③を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義 ②心理的アセスメントに関する理論と方法 ③上記2つの心理に関する相談、助言、指導等への応用 当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」			
(方法)			
毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行う。 レポートに対するフィードバックは個別に対応するので、担当教員へ連絡すること。			
【一般教育目標 (GIO)】			
公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解する。 心理的アセスメントに関する理論と方法を理解する。			
【行動目標 (SB0)】			
公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義、心理的アセスメントに関する理論と方法を心理に関する相談、助言、指導等へ応用できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
毎回、プリントや資料を配布する。			
【参考書】			
下山晴彦・宮川純・松田修・国里愛彦 編 『公認心理師のための「心理査定」講義』 北大路書房 (3,100円＋税) E・O・リヒテンバーガーほか 『エッセンシャルズ WAIS-IVによる心理アセスメント』 日本文化科学社 (7,000円＋税) 片口安史 『新・心理診断法ーロールシャッハ・テストの解説と研究』 金子書房 (9,500円＋税)			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、レポート50％、授業内でのディスカッション・ディベート50％の割合で評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査①	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査②	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査③	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査④	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査⑤	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	心理的アセスメントに関する理論と方法 知能検査⑥	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法①	講義 討議 (ディスカッション、ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240

9	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法②	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
10	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法③	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
11	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法④	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
12	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法⑤	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
13	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法⑥	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
14	心理的アセスメントに関する理論と方法 投影法⑦	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
15	公認心理師の実践における心理的アセスメントの 意義、心理的アセスメントに関する理論と方法を 心理に関する相談、助言、指導等へ応用する	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・ 認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の 心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助 言、指導等へ応用する①	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じ た適切な支援方法の選択・調整	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	力動論に基づく心理療法の理論と方法①	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	力動論に基づく心理療法の理論と方法②	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	力動論に基づく心理療法の理論と方法③	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	力動論に基づく心理療法の理論と方法④	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法①	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法②	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240

9	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法③	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
10	力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・ 認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の 心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助 言、指導等へ応用する②	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
11	その他の心理療法の理論と方法① 箱庭療法	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
12	その他の心理療法の理論と方法② 遊戯療法（プレイセラピー）	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
13	その他の心理療法の理論と方法③ 動機づけ面接	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
14	その他の心理療法の理論と方法④ 集団療法（グループセラピー）	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
15	力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・ 認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の 心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助 言、指導等へ応用する③	講義 討議（ディス カッション、 ディベート）	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				20				80	100
評価 指標	取り込む力・知識			20				80	100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	所作を聴く 茶道の基本的な動作を学びながら、5感を働かせる技術を学ぶ。	講義、グループワーク、実習	基本的な動作を繰り返し自習し、身につけること。 気づいたことを書き留めること。	180
2	結界を表象する 茶道を通して、空間のありかたについて学び、対人距離を学習する。	講義、グループワーク、実習	基本的な動作を繰り返し自習し、身につけること。 気づいたことを書き留めること。	180
3	心でもてなす 客を迎える心に触れ、自分を客観的に見つめる技術、相対する者への接し方を考える。	講義、グループワーク、実習	自分の在り方を顧みて、客観的にまとめてみる。	180
4	つかえる心 茶を点て、差し上げる喜びは、つかえる行為であり、自身の喜びにつなげる。	講義、グループワーク、実習	芸術療法を通じた医療行為とはどういうことかを考えてみる。	180
5	倦怠を癒す 息詰まった時の茶道での癒し方を学ぶ。	講義、グループワーク、実習	自分なりに日常に癒しを見立ててみる。	180
6	間合いを遅くする 話し言葉とは異なる間合いを知ることによって、自分と他者の心を調整する。	講義、グループワーク、実習	自分のリズムを振り返ってみる。	180
7	時を味方につける 1日の時の流れ、季節など移り行く時を取り入れて、場を作り出す心を学ぶ。	講義、グループワーク、実習	四季に目を向け、日常に取り入れてみる。	180
8	そなえる心 技術ばかりを追い求め、すぎることなく、行為そのものの主体性や心境に自由を見失わないために必要な心構えを学ぶ。	講義、グループワーク、実習	レポートの作成と提出。	180

【科目名】支援コミュニケーション特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】大矢 薫	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmH213	(メールアドレス) ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【開講時期】前期	【選択必修】必修		
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー)12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
本講義では、毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。			
【講義概要】			
(目的)			
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」			
(方法)			
毎回配布資料を読んでディスカッション、ディベートを行う。 レポートに対するフィードバックは個別に対応するので、担当教員へ連絡すること。			
【一般教育目標 (GIO)】			
産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を理解する。			
【行動目標 (SB0)】			
産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
毎回、プリントや資料を配布する。			
【参考書】			
新田泰生 編 『産業・組織心理学』 遠見書房 (2,600円＋税) 加藤容子・三宅美樹 編 『産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 (2,200円＋税)			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、レポート50％、授業内でのディスカッション・ディベート50％の割合で評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 産業・労働分野における公認心理師の役割	講義 討議（ディスカッション、ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 リーダーシップ	講義 討議（ディスカッション、ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 労働安全衛生マネジメント	講義 討議（ディスカッション、ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 動機づけ理論	講義 討議（ディスカッション、ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 職場組織の人間関係	講義 討議（ディスカッション、ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 アセスメント	講義 討議（ディスカッション、ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 カウンセリング	講義 討議（ディスカッション、ディベート）	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 コンサルテーション	講義 討議（ディスカッション、ディベート）	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【科目名】 言語聴覚障害学総論		【担当教員】 大平 芳則
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmhS161	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 2	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 水曜12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は、言語聴覚障害に関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶための構成になっている。よって、言語聴覚士や言語聴覚障害に関する概要を理解するものとして、言語聴覚士国家試験受験予定者だけでなく、他のコースの方も受講できるものとなっている。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。		
【講義概要】 (目的) 言語聴覚士の職務内容や職業倫理、対象患者などの理解を深める。人間がコミュニケーションをとるための聴覚や発声・発語に関する生理学的側面、また記憶や思考といった高次脳機能に関する側面、さらにそれらの機能を障害することによる様々な言語障害に対する知識を包括的に学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。 (方法) スライドを中心に講義を行います。 ・レポートはコメントを付して返却します。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。		
【一般教育目標 (GIO)】 言語聴覚障がいに関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶ。また、特に言語聴覚士に関する、言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理などについても学ぶ。 【行動目標 (SB0)】 ・言語聴覚障害の種類、対象、原因、援助方法を説明できる。 ・言語聴覚士に関する言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理について説明できる。 ・言語聴覚士に必要な態度について理解を深める。		
【教科書・リザーブドブック】 なし。 資料を配付します。		
【参考書】 藤田郁代、北義子、阿部晶子『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論』 医学書院 2020年 ¥5,000 (税別) 小嶋智幸『図解 やさしくわかる言語聴覚障害』 ナツメ社 2015年 ¥2,000 (税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート100%とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 言語聴覚士、言語聴覚障害とは	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
2	言語とコミュニケーション	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
3	言語聴覚障害学の種類、対象、原因	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
4	聞こえの障害	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
5	話しことば speechの障害 1	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
6	話しことば speechの障害 2	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
7	話しことば speechの障害（嚥下障害含む） 3	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
8	言語languageの障害 1	映画鑑賞	授業内容の復習 レポート作成	180分

9	言語 languageの障害 2	映画鑑賞 感想文作成	授業内容の復習 レポート作成	180分
10	高次脳機能障害	講義	講義の復習 レポート作成	180分
11	言語聴覚療法に関する動画・映画鑑賞	講義	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役割について学習する	180分
12	言語聴覚療法に関する動画・映画鑑賞	講義	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役割について学習する	180分
13	言語聴覚士に関する職業倫理	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
14	言語聴覚士の歴史	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
15	言語聴覚士に関する法律	講義 レポート作成	授業内容の復習 レポート作成	180分